

溝ニ有之候事トアリ又同引合人兵庫縣下攝津國八郡郡兵庫三川口町副戸長岡田徳兵衛カ明治十年八月廿日ニ大阪上等裁判所ニ於テ証言ノ口供第一條ニ原告第四號証書ニ百三拾目井料銀ト之レアルハ指上池吹出シヨリ原告水車場迄ノ水路ハ地方農民ノ所有地タルヲ以テ地方ニ受ケシモノニテ運上銀口銀打銀ハ地方ヲ經由シテ代官所ニ相納メタル儀ニ有之候事トアリ又同引合人谷勘兵衛カ明治十年八月廿一日ニ大阪上等裁判所ニ於テ証言ノ口供第一條ニ自分〔勘兵衛〕方水車新築ノ後南條新九郎方ノ水量相増シ隨テ水車日等相増シタルニ付年々金四圓ト錢八貫文宛新九郎方ヨリ差越ス云々同第四條中ニ右井村ニ銀六百目奥平野村ニ銀六百目年々出銀致スモノハ川除堤防修繕手傳トシテ全ク自分勘兵衛方ヨリ右兩村ニ與ルモノニテ南條新九郎方ヨリ受取ル金員ハ其又手傳トシテ全ク自分

〔勘兵衛〕方ニ送ルモノト相心得罷在右ノ内チ兩村ニ取次差出ス義ニハ無之候事トアリ又同引合人打越孫兵衛カ明治十年八月廿一日ニ大阪上等裁判所ニ於テ証言ノ口供第一條中ニ南條新九郎ヨリ濕地料受取タル原由云々新九郎ノ水車引水ニ限リ不申新開田畑ノ傍ハ兵庫地方ノ指上池ニシテ同所ニ惡水落込ニ田畑ノ妨害相成村方ノモノ迷惑致ス折柄新九郎ヨリ濕地料受取ルトニ相成タル趣云々又同第三條ニ前條ノ如ク濕地料ニ有之處原告第二號証書ノ通り溝料トシテ受取書相渡シタルハ誤リニ有之候事トアリテ原告第一號証書第二號証書第三號証書ハ原告新九郎方或ハ水上ノ水車營業人ヨリ剩餘水ノ分與テ受ルニ對シ或ハ用田水ノ流通ノ爲メ設ケアル溝渠ヲ通過スルノ水ヲ受用シ爲メニ其近傍ノ田畑幾許ノ損害ヲ被ムル故ニ之ヲ償カ爲メニ年々若干ノ金員ヲ贈リ來リタルコト乃チ餘水ヲ與

〜又ハ田畑ニ損害アルヲモ許シテ溝渠ヲ疏通セシムル人等ノ情誼ニ報謝スルノ外ナラスシテ其之ヲ贈ル原告新九郎下及此之ヲ受ル谷勘兵衛坂倉平左衛門夢野村等トシテ示談ニ由テノ特約ニ基キタルモノナリ而シテ原告第四號証ニ記載スル井料銀ナルモノハ原告新九郎ニ於テ何シカ爲メニ出銀シタルヤハ一ニ思想ノミニテ之ヲ確徴シ得ザリシノミナラス明治元年來ハ現ニ出銀セサルモノ也然ルニ原告新九郎カ右第四號証ヲ舉テ以テ第二號証第三號証ハ謝義ト稱スル如キモノ、受収書ニ非スシテ用水専用ノ權ヲ証スヘキモノトノ論理ヲ助ントズルト雖モ前項辨明ノ如ク原告第一號証第二號証第三號証ハ原告新九郎ヨリ夢野村外人等ノ情誼ニ報謝スルノ目的ニ由テ特約シタル贈金ヲ受収書ニシテ之ヲ用水専用ノ特權ヲ徵スル証左ト爲シ難シ於是テ大阪上等裁判所カ原告新九郎

他人ト示談シ一己ノ謝義ヲ贈與セシトテ往古ヨリ流下スル水利ノ權ヲ原告新九郎ニ得ヘキ條理オシトスト判決シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

第三條 被告六兵衛ハ原告新九郎ノ於テ指上溜池ヨリ地方へ流下シ樋門ニ両車へ分水ノ目標トスル切形ヲ以テノ陳述ハ原告新九郎前營業火坂倉平左衛門地方耕田掛戸長岡田徳兵衛舊村吏岡田利兵衛等ノ口供符合シトスツテ論所樋門ニ兩車へ分水ノ目標トスル切形ノ有無ニ就テ被告六兵衛ハ陳述ト引合人平左衛門外人等ノ口供ト相符合スル云テノ文義ニテ分水度量ノ口供相符合スル云テノ趣意ニアラス於是テ大阪上等裁判所カ口供符合シト裁判シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

第三條

前條ニ辨明スル如ク樋門ニ切形有無ニ就テハ被告六兵衛ノ陳述
 下引合人等ノ証言相符合シ尙且裁判官カ其實地ヲ檢視シタルニ果
 シテ切形現存シアリタリ抑本件原告新九郎ト被告六兵衛ト爭訟ス
 ルノ原由ハ原告新九郎ト被告六兵衛ト各所持スル水車用水ノ水源
 異字ケシガ鼻ト稱スル溜池ヨリ双方ノ水車へ平等ニ分水引用シ來
 リタリ其証ハ右水源ニアル樋杭ニ分水ノ目標トスル爲メ切形ヲ作
 リ尙釘ヲ打込ニアリタルニ明治七年十月中原告新九郎カ擅ニ被告
 六兵衛ノ水車用水溝へ新ニ樋門ヲ設ケ堰板ヲ高クシテ水ノ流通ヲ
 妨ケタリト被告六兵衛ハ主張シ原告新九郎ハ被告六兵衛所持ノ水
 車ニ引用スル水源水路共ニ原告新九郎ノ引用水トハ全ク別派ニテ
 被告六兵衛カ云々主張スル水利ハ原告新九郎専用ノ權アルモノナ

レハ假令切形ノ如キモノアルモ分水ノ目標トスヘキモノニアラス
 ト主張シテ終ニ訴訟スルニ至リタルナリ於是テ裁判官ハ原被告双
 方ノ申述ヲ審理シ其証左ヲ徴シ引合人等ノ証言ヲ參照シ且實地ヲ
 親檢シ被告六兵衛ノ陳申ハ憑ルヘキノ証左アリテ理ニ適シタリト
 信認シ新ニ原告新九郎カ設ケタル樋門ヲ取除クヘシト裁判シタル
 ナレハ大阪上等裁判所ノ裁判ハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

前條々ノ如クナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ヲ破毀スル理由ナキ
 モノトス

第八拾貳號

○約定前金取戻一件上告ノ判文
 明治十年九月二十六日上告
 明治十一年五月廿九日申渡
 原告 東京第五大區壹小區淺

草茅町二丁目拾四番地

東京府土族

内田 一三

被告 東京第四大區二小區西

小川町二丁目九番地

華族

南部 利恭

東京上等裁判所判文

約定前金取戻ノ一件東京裁判所ノ裁判不服ノ趣ヲ以テ及控訴次第
遂吟味處原告内田一三訴フル要旨ハ明治元年十二月廿六日被告南
部利恭ヨリ陸中國閉伊郡鎌石及ヒ山田鉄ヶ崎ナル三港漁業運上金
取立方請負可願出旨内命アリシニヨリ翌日則チ明治元年十二月二

十七日願書差出シ願ノ通り請負申付シレ明治元年十二月二十九日
迄ニ第一號明治元年辰十二月附證書ニ

本文第一號証書寫左ノ如シ

遺證文

- 一 三閉伊湊役錢取立方三閉伊出昆布布海苔津役並ニ煎海鼠干鮑
熨斗串具買入方爲登方請負一ケ年御禮金三千兩宛ニテ來巳年
リ向酉年迄五ケ年中是迄之御振合ニ基キ取行方申付候事
- 一 御禮金ノ内爲前金五千兩即上納之分取行中年々御禮金ヨリ千
兩宛御差引可被成遺事
- 一 一ケ年御禮金三千兩宛月割ニシテ年數中毎月無相違上納可申事
右之通申付候條相違ノ儀仕間舖萬一所ノ者並ニ商人共及迷惑候
歟非道私曲ノ儀相聞候ハ、詮議ノ上越度可申付不依何儀差支ノ

筋於有之者證文可取上者也

明治元年辰十二月

在東京

丹後

同

隆之進

主水

讚岐

在東京

式部

同

正路

同

中務

同

伊豫

本町檢斷
砂子澤

健藏

願人同町

伊助

記載スル所ノ方法ニ依リ金五千圓ヲ被告ニ渡シタリ然ルニ翌明治

二年正月七八日頃被告ハ舊白石藩主ヲ命セラレタル旨達セラレシ
ニ付原告ニ於テハ其目途ヲ失ヒタルニヨリ被告ニ對シ該金五千圓
ノ下戻シヲ催促ニ及ヒタルニ被告ニ於テ右鎌石港外二港所在ノ地
方ハ舊松代松本兩藩ノ預リ所ナレハ該金五千圓請負ノ一件ハ同藩
ニ引送リタル旨ヲ答ヘタルニ付明治二年四月中同藩へ該事件ヲ願
出テ採用相成ラサル末被告ハ再ヒ舊盛岡藩へ復歸セシニ付展催促
ニ及ヒ則チ第二號明治二年六月附ヲ以テ年賦濟方依頼証ヲ
本文第二號證書寫左ノ如シ

覺

一金五千兩

右者三閉伊港役錢取立方出昆布布海苔津出役煎海鼠干鮑熨斗串
具買入方爲登方請負昨冬願ノ通申付候節御禮金之内爲前納金上

納受取候處此度御取締ノ御藩へ御引渡相成候付テハ右ノ金子御
自分へ可下戻ノ處御轉國ニ付テハ不少御入費有之當速御金配行
届兼候ニ付時節柄迷惑ニ可存候得共白石表へ御引越ノ上來午年
ヨリ年々千両宛御下渡被成候間當場合柄乍不本意勘辨可給候依
テ証券差入置申候以上

明治二年巳六月

片岸金次郎

漆戸藤右衛門

松岡字市

星川勘助

一條徳兵衛

平岡典

本町伊助殿

前書ノ通相違無之候依テ奥印如件

高埜織江

長嶺忠司

中村一郎右衛門

帷子繁治

高橋方右衛門

駒ヶ嶺友彌

百岡啓右衛門

與ヘテレタリ原告ニ於テハ承諾セサルニ依リ之ニ引換ヘテ第壹號
証ヲ還付セサリシナリ爾後屢督促ノ末明治四年ニ至リ該金五千圓
ハ朝廷ヨリ直チニ下ケ渡サルヘキニ付岩手縣へ引續キタル旨被告
ヨリ通知アリタリ然ルニ明治七年四月二十日原告ハ岩手縣廳へ伺

出シニ該金額ハ元來漁業ノ冥加金ナルニ付公債ニ相立サル旨ヲ指
 令ニ及ハレタリ依テ原告ニ於テ熟考セシニ明治元年分舊盛岡藩ノ
 貢租ハ悉皆政府へ收入セラレタレハ被告ニ於テ明治元年ニ於テ舊
 盛岡藩ノ税額ニ關スル金額ヲ收入スルノ權利ヲ原告ニ與ラヘキ理
 由ナケレハ正シク該金額ハ税額ノ部分ニ屬セスシテ三港漁業運上
 取立方請負ノ約定前金ナルニ被告ニ於テハ初メヨリ遂ル事能ハサ
 ル所ノ事業ヲ原告ニ對シ請負ハシメタルナレハ該金額ハ被告へ對
 シ還付ヲ請求スヘキノ理由ヲ生シタリ又被告ハ明治元年十二月七
 日家名再立ノ前ニ舊盛岡城地被召上則チ家名再立ノ際土地ノ儀ハ
 追テ御沙汰云々トアリ而シテ明治元年十二月十一二日ノ頃舊白石
 城ヲ預ケラレタレハ明治元年十二月下旬被告ニ於テ三閉伊港役ノ
 權ヲ與ヘ原告ヨリ金五千圓ヲ徵求スルヲ得ヘカラサルモノナルニ

其名ヲ借リテ該金五千圓ヲ私有セシモノニシテ該金額ハ税額ノ部
 分ニ非ス又藩債ニ非サレハ被告ニ對シ償還ヲ請求スヘキハ當然ナ
 リ又被告ニ於テ第一號証ノ趣旨ハ第五號証ニ依テ更改シタリト云
 フモ第二號証ノ依頼ヲ原告ニ於テ之ヲ承諾セシ上ハ第一號証ヲ被
 告へ還付スヘキニ今猶原告ニ於テ第一號証ヲ所持スルハ第二號証
 ヲ承諾セサルノ証ナリ然ルニ初審裁判所ニ於テ控訴狀ニ掲載セシ
 如ク裁判申渡サレタルハ不服ナルニ依リ控訴シタリト
 被告南郡利恭答フル要旨ハ原告ヨリ舊盛岡藩へ納メタル金額ハ舊
 盛岡藩ニ於テハ津役ト稱シ小物成ノ一部分ニシテ三閉伊港役ニ關
 シ之ヲ請負フモノヨリ禮金トシテ先納スル舊慣ナレハ明治二年六
 月附ノ証ヲ以テ年賦償却ノ方法ヲ約シ其證書ヲ原告ニ交付シタレ
 ハ右請負金ノ理由ハ全ク解除シ而シテ舊盛岡藩ヨリ岩手縣ニ引續

キ大藏省へ届ケ濟ミニナリタルハ其藩債タル事疑ヲ容ルヘカラサルモノニシテ被告ヨリ返濟スヘキノ金額ニアラス況ンヤ原告ニ於テ岩手縣廳へ對シ出願シ而シテ其指令ヲ得シハ該金額ノ舊盛岡藩ノ負債タルヲ信認セシ事瞭然タルニ於テチヤ因テ被告ニ於テハ該金額ニ於テハ毫モ關係スヘキ理由ナシト因テ判決スル左ノ如シ

第一條

原告ニ於テ第壹號証及ヒ第貳號証ト貳個ノ証書ヲ併セテ所持シタル上ハ其後ナル日附ノ証書ノ効ニ依リ其先ナル日附ノ証書ノ効ハ變更セシ者ト見做シ得ヘク況ンヤ第貳號ノ証書ヲ領収セシヨリ數年ヲ經過セシハ其証書ノ事柄ヲ承諾セシモノト見做サ、ルヲ得サルニ於テチヤ因テ原告ニ於テハ第貳號証ヲ承諾セサルモノト認メ難シトス

第二條

明治元年十一月付證書ノ金額ハ假リニ原告ノ指稱スル如ク舊盛岡藩ノ收納ニ係ラスシテ鎌石港外二港々役取立テ方請負金ノ前納ニシテ則チ約定前金ニ當ルモノナルニ被告ニ於テ初メヨリ遂ケル事能ハサル所ノ事業ヲ原告ニ對シ請負ハシメタルモノニシテ則チ被告ハ原因ナキノ契約ヲナシ謂レナキノ富ヲ得タルモノナレハ該金額ハ被告ニ對シ償還ヲ求ムルノ權利アリトスルモ該金額ノ如キ當時南部家ノ公用則チ舊盛岡藩ノ藩用ニ關涉ナク至ク被告カ一己ノ爲メニ収入費用セシノ証ナク而シテ第貳號証書ヲ以テ其返濟ノ方法ヲ更改シ轉國云々入費云々ト云ヒテ舊盛岡藩ノ負債タルヲ証明シタリ因テ該金額ハ舊盛岡藩ノ負債ニ屬スヘキモノトス

第三條

前條々ノ理由ナルヲ以テ原告ノ申分不相立因テ原告ハ該金額ヲ被告ニ對シ濟方ヲ請求スルノ權利無之儀ト可相心得候事 明治十年七月廿八日
大審院ニ於テ

原告 内田一三上告ノ要旨

第一條

東京上等裁判所判決文中原告ニ於テハ第二號証ヲ承諾セサル者ト認メ難シトアレバ該証ヲ承諾セサル憑據左ノ如シ

第一 該証書末文ニ時節柄迷惑ニ可存候得共白石表へ御引越ノ上來午年ヨリ年々千兩ツ、御下渡被成候間當場合柄乍不本意勘辨可給候ト記載シアリテ一モ原告ノ承諾シタル旨趣ヲ明記セサル証ナレハ爭テカ日附ノ先後ノミヲ以テ第一號証ハ第二號証ニ變更セシ者ト見做スヲ得ンヤ

第二 該証ハ被告藩權ヲ恣ニシ權利者タル高田伊助ヲ制壓シテ附與シタル一ノ依頼書ナレハ伊助ニ於テモ當時難澁ノ次第ヲ陳シ歎願書差出セシ程ナレハ之ヲ開明ノ今日ニ比スレハ該書ニ不服ヲ唱ヘシ証左ト爲スモ決シテ承諾セシ証ト爲ス可ラス

第三 被告ニ於テ示談ノ上該証ヲ渡シタル者ナレハ第一號証ヲ原告ノ手ニ殘シ置クヘキノ理ナク原告ニ於テモ亦第一號証ヲ被告ヘ還付ス可キ筈ナク然ルニ併セテ之ヲ所持セルハ原告ノ承諾ヲ得テ該証ヲ授受セサレハナリ

第四 該証書中來午年ヨリ年々千兩ツ、御下渡被成候トアレハ則チ明治三年中該年賦金ノ千兩ハ返還ヲ受ク可キニ其儀ナカリシハ原告ニ於テ該証ノ依頼ニ應セサリシナリ前陳ノ如ク第二號証書ノ要旨ハ悉皆被告ノ自由情願ヲ記シ原告ヘ依頼シタル迄ニ止マルモ

ノナリ況ヤ第一號証ハ南部家ノ重臣數人ノ名印アリテ其第二號証ニ至リテハ勘定奉行及ヒ勘定方數名ナルヲヤ縱令該証ヲ得テ數年ヲ經過スルモ原告ノ權利ニ於テ妨ケアル事ナシ是レ被告ニ對シ償還ヲ求ムル所以ナリ然ルニ貳箇ノ証書ヲ併セテ所持シタル上ハ其後ナル日附ノ証書ノ効ニ依リ其先ナル日附ノ証書ノ効ハ變更セシ者ト見做シ得ヘクト云ヒ又其證書ノ事柄ヲ承諾セシ者ト見做サルヲ得スト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

第二條

同裁判所判文中該金額ノ如キ當時南部家ノ公用則チ舊盛岡藩ノ藩用ニ關涉ナク全ク被告カ一己ノ爲メニ収入費用セシノ証ナク而シテ第二號証書ヲ以テ返濟ノ方法ヲ更改シ轉國云々入費云々ト云ヒテ舊盛岡藩ノ負債タルヲ証明シタリトアレトモ元來被告カ原告ニ

與フル能ハサル事業ヲ與ヘント詐稱シテ徵求シタル金額ナレハ其原因ナキノ契約ヲナシタルト謂ハレナキノ富ヲ得タルトハ當時被告ノ私曲ニ係レル事ヲ看破セリ於是始テ政府ノ辨償ヲ仰カスシテ被告ノ償還ヲ求メタリ而シテ該金使用ノ如キニ至リテハ原告ノ干預セル場合ニアラサレハ則チ原告ニ於テ其証ヲ舉クルノ理由ナキ事當然ナリ夫レ如此約定前金ノ原山ヲ問糺セスシテ單ニ舊盛岡藩ノ負債ニ屬スヘキ者トシ被告ニ對シ濟方ヲ請求スルノ權利ナキモノト判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト思考ス

辨明

本案上告ノ主要ハ第二號証書ハ高田伊助カ承諾セサル者ニ付第一號證書ノ金額ハ被告南部利恭ヨリ償還スヘキ者ト云ニアリ故ニ今之カ辨明ヲ爲ス事左ノ如シ

第一條

第二號証書ハ第一號証書ノ金額ヲ年賦割拂ニ致スヘシトノ証書ニシテ原告カ云フ所ニ據レハ被告カ舊盛岡藩へ再任シタル後成立タル處ノ者ナリ而シテ原告ニ於テ右証書ハ一片ノ依頼証書ニシテ高田伊助カ曾テ承諾セサル處ノ者ナリトスレハ高田伊助ニ於テ當時無異議之ヲ領収シタルニ付既ニ右証書ヲ以テ満足シ更ニ故障ナカリシ者トセサル可ラス又右証書ヲ以テ公債處分願出タルヲ見レハ高田伊助ハ右証書ニ記シタル事ヲ實地ニ試ミタル者ナリ既ニ証書ニ記シタル事項ヲ實地ニ試ミタル上ハ其証書ハ之ヲ承諾セサル者ト謂可ラス況ンヤ高田伊助カ右証書ヲ以テ原告へ讓渡シタルヲ見レハ固ヨリ之ヲ承諾シタル者ニ付之ヲ讓渡シタルナリ何トナレハ自己ノ承諾ナキ者ナラハ之ヲ他人へ讓渡ス管ナケレハナリ右ノ如ク

第二號証書ハ高田伊助カ之ヲ承諾シタル事實有之ニ付東京上等裁判所ニ於テ右証書ハ高田伊助カ領収セシヨリ數年ヲ經過シタルヲ以テ之ヲ承諾セサル者ト認シ難シト判決セシハ之ヲ至當ノ裁判ナリトス

第二條

第二號証書ハ前條ニ於テ辨明セシ如ク高田伊助カ承諾セシ者ニ付第一號証書ノ成立如何ナルモ第二號証書ヲ以テ其性質ヲ更改シタル者トセサル可ラス而シテ第二號証書ハ被告カ舊盛岡藩へ再任ノ上同藩會計掛數名ノ連署ヲ以テ之ヲ記シタル者ナレハ被告ノ自認無之上ハ之ヲ其私債ト做ス可ラス因テ東京上等裁判所ニ於テ本案ノ金額ハ被告へ對シ償還ヲ請求ス可キ權利ナシト判決セシハ之ヲ至當ノ裁判ナリトス

判決

前條々ノ次第ニ付東京上等裁判所ノ裁判ハ之ヲ破毀スヘキ理由ナキ者トス

第八拾三號

○質地貸金催促ニ件上告ノ判文明治九年七月十四日上告

原告 千葉縣下總國第二大區

一小區葛飾郡堀江村十

四番屋敷農高津長七代

人

同縣下同國第十一大區

十五小區葛飾郡本鄉村

七十五番地農

梨木新七

被告 東京府下第一大區十四

小區新材木町十一番地

平民

東初太郎

東京上等裁判所ノ審判

原告 東初太郎代理人

中川清助

被告 高津長七代言人

龜田其治

貸金催促ノ訴訟千葉裁判所ノ裁判不服ノ旨ヲ以テ控訴及フ次第遂

吟味處原告東初太郎申立ル趣ハ去ル明治三年十二月明治四年

二月兩度ニ亡養父東六郎義字田川六郎兵衛取次ヲ以テ被告人〔高津長七〕ニ三ヶ年季ノ質地証書ヲ以テ金七百五十圓貸渡セリ然ルニ期限相過ルト雖モ返辨セサルカ故ニ明治八年三月二十二日千葉裁判所へ出訴セシ處被告人〔高津長七〕ヨリハ明治五申年十二月期限未滿中取次人六郎兵衛方へ返金セシ旨六郎兵衛モ之ヲ受取シ由申立タリ而シテ裁判結局ハ六郎〔東六郎〕ト六郎兵衛字田川六郎兵衛同居籍ニテ六郎兵衛ハ其戸主タレハ別ニ六郎ノ相續人ナルヘキ筋ナシト云フヲ以テ原告ノ請求相立サリシナリ然レトモ亡六郎ノ六郎兵衛ト同居ナラサル譯ハ安政六未年十一月六郎兵衛事六郎字田川家相續ヲ豊太郎事六郎兵衛ニ讓リ安政六未年十二月六郎ハ東京深川八幡旅所門前町彌平店廷太郎方へ送籍シ同居ス夫ト僅ニ十日計ニシテ現今ノ住所新材木町へ轉居シ東屋六郎ト稱へ藥種商業營ニ居

リ爾後文久二戌年九月實子三人ヲモ堀江村ヨリ六郎方へ送籍セリ全体六郎分籍ニ付テハ別紙議定ノ通り親族協議ヲ盡シ財産分割ノ上全ク別戸シ明治五申年十月二十四日死去シタリ依テ實子芳松一時相續致セシ處病身ナルヲ以テ當初太郎更ニ相續セシナリ將又被告〔高津長七〕ニ於テハ明治三午年十二月ノ証書ニ借入金五百五十圓トアレトモ實際貳百五十圓ナラテハ借受ケス其所以ハ質入ノ地所金高ニ相當セサルカ爲メナリサレトモ証書ハ其儘差入置六郎兵衛ヨリ返リ証書取置タル趣申立レトモ原告〔東初太郎〕ニ於テハ証書面ノ通り五百五十圓貸渡セシニ相違無之且ツ金子受授ノ際養母八重モ其席ニ居合セシ山曾テ申聞タリ然ルニ被告人〔高津長七〕六郎兵衛へ返金セシ受取書及ヒ本証文ノ返リ一札等取置キアリト雖モ右ハ固ヨリ原告〔東初太郎〕ノ知ル所ニアラス依テ証書面ノ通り二口合計

七百五十圓返辨アリ度旨申立タリ
 被告〔高津長七〕申立ル趣ハ明治三年十二月貢租上納金ニ差支タル
 ニ付地所賃入金五百五十圓借用致度旨宇田川六郎兵衛へ頼談セシ
 ニ繼父六郎方ヨリ借リ入レ可遣趣ニ付則チ六郎宛ノ証書ヲ六郎兵
 衛へ托セシ處六郎ニ於テハ地所金高ニ相當セサル故貳百五十圓ナ
 ラテハ貸渡シカクキ旨申聞タルヨシサレトモ貢租期限切迫ニ付六
 郎兵衛計ラヒテ以テ先ツ貳百五十圓借受來レリ若シ夫レニテ苦シ
 カラサレハ証書ハ其儘差入置キ實際貳百五十圓ノ貸金ナル證書ハ
 別ニ六郎兵衛ヨリ可相渡旨相談ニ付素ヨリ親子ノ間柄聊カ故障ハ
 アル間敷ト存シ任其意該金并ニ別紙返リ証書ヲ受取タリ
 尙ホ又明治四年二月ノ借用金モ前同様六郎兵衛ヲ經テ六郎ヨリ
 借受タリ其後明治五年十二月期限未滿中ナレトモ金子調ヒタル

ニ付元金合シテ四百五十圓利息ハ元金二十五圓ニ二十五錢ノ割合
 以テ元利合計五百五十六圓六郎兵衛手許へ持參セシ處其節六郎
 兵衛ノ說話ニ六郎義其年十月三十四日死去ニ付家族ハ自分方へ可
 引纏積リナリ依テ金子ハ此方へ受取置キ本紙証文ハ追テ取寄セ返
 却スヘシトテ假リノ請取書ヲ渡セリ然ルニ先般六郎相續人ヨリ出
 訴ニ及ハレ六郎兵衛名代人ヲモ吟味ノ末遂ニ六郎兵衛ト同戸ト定
 マリ自分ノ義務ハ已ニ盡セシモノト裁決セラレタリ但シ証書ニ賃
 地トアレトモ素ヨリ地所ハ引渡サ、リシ旨申立タリ
 引合人六郎兵衛病氣ニ付親族金子長三郎代人トシテ申立ル趣ハ被
 告〔高津長七〕答辨ノ通り相違無之故六郎ハ六郎兵衛ノ繼父ニシテ安
 政六年十一月家督ヲ當六郎兵衛ニ譲リ自分ハ東京深川八幡旅所
 門前町彌平店延太郎方へ同居致セシナレトモ本籍ハ除カス爾後文

久二戌年九月六郎ノ實子芳松外二人本籍ヲ除キ東京新材木町六郎住所へ送籍セシト雖モ六郎ノ本籍除カサル間ハ自カラ其子モ同シク六郎兵衛ノ家族タル心得ナリ尤モ六郎ハ一代限り出京致サセシ者ニ付死後其子供等ハ六郎兵衛方へ可引纏積リナリシニ等閑ニ打過タル儀ニテ決シテ別戸ヲ立サスヘキ筈ニ非ス其証ハ六郎別居ノ節議定書ノ内子供三人片付ノ節ハ一人ニ付三十圓宛六郎兵衛ヨリ出金スヘシトアリ若シ別戸ヲ立ルモノナラハ三人ノ子ヲ殘ラス他へ可遣管無之亦其議定書ニ後妻云々トアルハ追テ後妻ヲ娶リタル上ノ儀ヲ豫定セシニテ當時八重ヲ指シ後妻トハ云可カラス將又當戸主ト稱スル初太郎ハ六郎ノ生存中養子トナシ置キシ由ナレトモ實子芳松ヲ差置キ養子ヲ戸主トナスヘキ謂レナシ畢竟八重ノ所存ヨリ出タル義ニテ六郎兵衛ノ許諾セシニ非ラス斯ノ次第ニ付被告

長七ノ返金ヲ六郎兵衛へ受取シハ相當ナル旨申立タリ

依テ堀江村戸籍ヲ調査セシ左ノ如シ

安政六未年十一月十日六郎兵衛儀六郎ト改名隱居シ粹豊太郎事六郎兵衛ト改名相續致シ同年十二月隱居六郎儀江戶深川八幡旅所門前町彌平店延太郎方へ同居致度旨ニ付則チ同所へ入別相送ルトア

安政七申年ノ戸籍面豊太郎改六郎兵衛ト記シ

男二人 女五人 外ニ一人同人

父隱居六郎トアリテ全ク除籍ニアラサレトモ六郎兵衛家族ノ外書

トナレリ且ツ又万延二酉年文久二戌年右兩年ノ戸籍面モ前文同様

ナリ文久二戌年三月戸籍面ニ「トク」芳松「ヨウ」三人今年九月新材木町

六郎方へ同居致シ候由ニ付則チ同所へ入別相送ルトアリ

文久四子年ヨリ明治四未年迄以簿冊ハ明治四未年七月九日津浪ノ

際流失セシ旨舊印幡縣廳へ届出タル由堀江村用掛大塚彦藏ノ申立アリ明治五申年現在人員書上下調帳ニハ六郎ノ名前見ヘス
 新材木町ノ戸籍ヲ調査スルニ左ノ如シ
 東初太郎亡養父東六郎安政六未年ヨリ明治二己年迄ノ戸籍ハ明治六年十二月九日東福田町ヨリ出火ノ際新材木町モ類焼シ其節悉皆焼失セシ旨右町用掛リ池上幸太郎ノ申立アリ
 明治三年四月改ノ戸籍面ニハ四番組新材木町借地町人東屋六郎ト記載アリ
 明治五申年七月改ノ戸籍面ニハ商藥種渡世父武藏國葛飾郡戸个崎村農亡加藤伊兵衛六男東六郎ト記載有之其ノ處へ實父六郎義壬申年十月二十四日病死ニ付當時名前改芳松尙又長男芳松病身ニ付養弟初太郎明治七年一月八日戸主ニ改ルト附紙アリ

明治八年一月改メノ戸籍面ニハ東初太郎戸主ト相成居ソリ右ノ通りニ有之上ハ故六郎別戸シ當初太郎ハ其相續人タル事分明ナリ

明治八年四月十九日堀江村用掛リ大塚彦藏ヨリ千葉裁判所へ出シタル書面ノ内六郎儀去ル安政六未年同居人別差出セシ以來當明治八年迄ノ内送籍致シタル覺無之トアルトモ同居人別ヲ送リタルハ送籍ニ非ストノ限リモ無之依テ彦藏ノ書面証據ニ相立サルナリ但シ八重身分ニ付彦藏及ヒ原告并ニ引合人ノ申立アリ結局八重ハ六郎ノ後妻タル証憑アリト雖モ本訴ニ緊要ナラサルヲ以テ爰ニ詳記セス

六郎兵衛代人申立ニハ議定書ニ子供三人片付ノ節云々トアルハ別戸チナサル契約ノ証ナリト雖モ其証據ニハ相立タス元來六郎ハ

他家ヨリ宇田川家ヲ相續セシ處一家頗ル紛紜ヲ生シ安政六末年ニ至リ六郎一身ニ屬スル財産ヲ分テ東京深川へ別籍シ夫ヨリ新材木町へ移リ妻子ノ籍ヲ移シ東屋六郎ト稱へ別ニ一家ヲ立タル事ハ新材木町ノ戸籍面ニ判然タリ掘江村戸籍外書ニ六郎ノ記名アリトテ已ニ送籍セシ實子ナモ仍ホ六郎兵衛ノ家族ト心得シトハ不都合ノ申立ニ付採用ヒカクシ依テ判決スルヲ左ノ如シ

被告ニ於テハ六郎兵衛ニ渡セシ金圓ノ證書ヲ以テ原告へ對スル義務ヲ免カルヘキニ非ラス依テ原告請求ノ通り証文面ノ金高七百五拾圓被告ヨリ返辨可致事

但シ被告人ハ六郎兵衛ニ對シ償ヒテ求ムル權アル可シ
明治九年五月十六日

東京上等裁判所簿記中被告代人中川清助差出シタル六郎兵衛ト六郎

ノ爲取換一札并ニ堀江村役人ヨリ差出セシ六郎外三人送籍狀寫

第一號

一札之事

一六郎兵衛家事向差縫候ニ付今般養母并ニ親類共ヨリ六郎兵衛へ相掛候御利解ノ儀御支配御役所様へ願上ケ御糺シ中ノ處貴殿方立入被下夫々掛合ノ上六郎兵衛義隱居イタシ家名ノ義ハ悴豊太郎相讓リ同人事六郎兵衛ト改名六郎兵衛義六郎ト相改隱居イタシ右ニ付テハ跡相續人六郎兵衛ヨリ扶持方トシテ水旱ニ不拘一ケ年玄米四斗入二十俵并ニ諸賄料トシテ金二十二兩其外味噌澤菴漬菜漬一樽宛六郎存生中年々無相違差送可申候

一隱居致候ニ付家作金其外共金百兩六郎ニ相渡候上ハ右ヲ以何レへ家作補理方又ハ買調候トモ同人勝手ニ可致万一類燒イタシ

候トモ家作料其外トモ一切差出不申管
 一六郎後妻ノ儀後年ニ至リ一人ニ相成候節扶助手當ノ儀ハ相續
 人六郎兵衛并ニ貴殿方ニ元何程ノ手當成トモ宜敷様ニ取計相續
 人并ニ外子供トモ難澁不致様取計候管
 一德女芳松幸女右三人成生ノ上身分相片付候節ハ一人金三十兩
 宛相續人ヨリ片付金差出シ可申管
 一所持ノ田畑家敷トモ相續人六郎兵衛へ相譲リ候上ハ六郎義一
 切差構申間敷管
 一諸道具ノ儀ハ親類并ニ貴殿方一同立會取調ノ上六郎相續以前
 ノ分ハ不殘當六郎兵衛方へ請取全ク六郎相續中買調分ハ貴殿方
 見計ヲ以引分可相渡管
 一六郎相續中農間質渡世ノ儀ハ前同様立會出入取調ノ上一式當

六郎兵衛引請可申管

一有錢凡二百貫文程有之内半々引分六郎并ニ當六郎兵衛兩人ニ
 テ請取可申管
 一貸金日掛錢并ニ借用金又ハ無盡掛金掛戻シ等夫々取調ノ上一
 式當六郎兵衛引請可申管
 一相續人六郎兵衛儀万一不身持ノ儀ハ勿論家事向不取締等ノ節
 ハ村役人并ニ親類共ニテ教諭ノ上爲相愼養父六郎ヨリ相譲リ候
 通田畑家敷トモ不失様取締方イタシ家名相續相成候様貴殿方御
 立會ノ上取計候管尤モ六郎ヨリ万事直ニ異間差加へ申間敷候管
 右之通廉々取極メ上ハ以來六郎身分ニ付何様ノ義有之トモ六郎
 兵衛方へ無心ケ間敷義決テ申入間敷管且前書ノ廉我等共ニシイ
 テ違變オタシ候儀有之候ハ、此一札ヲ以如何様御取計被成候共

一言之申分無御座候爲後証一札差出シ申處依テ如件
 堀江村
 豐太郎事六郎兵衛
 祖母子代親類一
 同
 安政六未年十月十日
 右
 親類物代
 西一之江村
 百姓
 取扱人

源左衛門殿

長右衛門殿

戸ヶ崎村

伊兵衛殿

前書之通我等共立會承知罷在候上分万一田畑質地ニ差入候節ハ我等共
 ヲリ右扱人衆へ一應斷ノ上取計可申候依之奥書印形イタシ置候以上

堀江村

名主

甚左衛門

同

年寄

佐野平次政吉

右之通本紙我等共方へ請取置候間爲後証寫相渡置申處仍テ如件

右

未十一月十日

源 左 衛 門
長 右 衛 門
伊 兵 衛

六郎兵衛殿事

六郎殿

第二號

一札之事

一我等儀去ル天保成年中百助後家ニキ方へ入夫ニ相成六郎兵衛家名相續罷在候處平常御養母様へ孝養向不行届ニ被存且當節悴

豊太郎心得違有之迎家名相續人ニ致シ難ト之ヲ申候得共至シ我心得違相當リ其儘被成難候ニ付御養母様并ニ親類衆我等ニ相掛御取扱被下夫々掛合ノ上我等義隱居イタシ家名ノ儀ハ悴豊太郎へ相譲リ候上ハ前名六郎ト改名致シ可申候依之我等隱居致シ候ニ付跡相續人六郎兵衛ヨリ扶持方トシテ一ノ年玄米四斗八二拾俵諸賄料トシテ金二拾二兩味噌澤庵菜漬一樽ツ、我等存生中年々無相違可差送等
一家作手當トシテ金四拾兩我等方へ受取候上ハ右ヲ以家作補理候トモ買調候トモ我等勝手次第ニ取計万一類燒等致シ候共重テ手當ノ義一切申入問敷候等我等出稼元手金トシテ金六拾兩受取候上ハ以來何様ノ儀有之候トモ當六郎兵衛へ對シ無心ケ問敷儀

一切申入間敷候等
 一我等實子トシ芳松ヨウ右三人ハ當六郎兵衛引請養育成長ノ上
 我等ニ不抱身分取極メ方イマシ候等
 一六郎兵衛方所持ノ田畑家屋敷下モ當六郎兵衛進退致シ我等儀
 一切差搦申間敷候等
 一諸道具ノ儀ハ親類并ニ貴殿方一同立合取調ノ上我等相續以前
 ノ分ハ不殘當六郎兵衛ニ相渡シ我等全身退中買調候分ハ貴殿方
 見計ヲ以テ引合受取可申等
 一農問質渡世ノ儀ハ前同様立合出入取調ノ上當六郎兵衛進退可
 致等
 一有錢凡二百貫文程右ハ半々引分我等并ニ當六郎兵衛兩人ニ
 受取可申等

一貸金日掛錢并ニ借入金又ハ無盡掛金掛戻シ金等夫々取調ノ上
 一式當六郎兵衛引請可申等
 一當六郎兵衛萬一不身持ノ儀有之趣相聞ヘ候ハ其段貴殿方
 申出候間六郎兵衛ニ得ト御教諭ノ上取締方被成下家名相續相成
 候様親類并ニ貴殿方一同ニテ御取計被下候等依テハ我等ヨリ直
 ニ異見差加ヘ申間敷候等
 右之通り廉々取極メ候上ハ以來我等身分ニ付何様之儀有之候共
 六郎兵衛方ニ無心ケ間敷義一切申入間敷候萬一違變イマシ候儀
 有之候ハ、此一札ヲ以何様御取計被成候共一言ノ申分無御座候
 爲後証差入一札依テ如件

堀江村

六郎兵衛事

安政六未年十一月

六

郎

本行徳村

源左衛門殿

長右衛門殿

戸ヶ崎村

伊兵衛殿

前書ノ趣我等共立會承知罷在候ニ付奥書印形致シ置候以上

親類村役人

三判

右之通り本紙我等方へ請取置候間爲後証之寫相渡置申候處如件

右

未十一月

源左衛門

長右衛門

兵衛

於子殿

豊太郎殿事

六郎兵衛殿

親類衆中

第三號

人別送り之事

林部善太左衛門當分

御預所下総國葛飾郡

堀江村百姓六郎兵衛

隠居

右ノ者此度深川旅所門前彌兵衛店延太郎方へ向居致シ候旨申出候間其御町内人別へ御加入可被下候
右村名主
甚左衛門

未十二月

深川旅所門前

月行事中

第四號

人別送り一札之事

林部善太左衛門當分

御預所下総國葛飾郡

堀江村百姓六郎兵衛
妹

成十六歳

同十一歳

同人弟

同十三歳

右ハ當村人別帳相譯新林木町家主六郎方へ相送り申候以上

右村名主

成九月

佐平二

大審院ニ於テ

福島三郎右衛門殿

原告 高津長七代人梨本新七上告ノ要領

亡六郎長男芳松ハ明治二年中本行徳村田所源左衛門方ニ養子ニ参
 リ明治八年一月同人方離別ニ成リシモノナレバ明治五年十月有六
 郎死去ヨリ明治七年一月初太郎ハ名前譲ル迄一ケ年餘六郎跡芳松
 カ相續セシ旨新材木町ノ戸籍面ニ張紙アルハ不都合ノ段明治九年
 四月下旬東京上等裁判所ニ於テ長七代人龜田其治ヨリ申立置キタ
 リシ然ルニ此裁判書ニ右新材木町戸籍ノ付紙ヲ採用セラレタルハ
 不法ナリ

一六郎ハ安政六未年中六郎兵衛ニ家督ヲ譲リ間モナク江戸深川へ
 隠居セシ事ハ六郎ト六郎兵衛ノ爲取換一札ニテ判然タリ仍テ六郎

ノ江戸住居ハ一家別立ノモノニ非ラス則チ隠居ノ儀ニ之レアリ故
 ニ堀江村用掛リ大塚彦藏ヨリ千葉裁判所ヘノ申立書ニ

宇田川六郎兵衛隠居六郎儀去ル安政六未年同居人別送り差出シ

タル以來當明治八年迄ノ内六郎ヲ送籍致シタル覺エ一切之レナシ

ト申立タルニ東京上等裁判所ノ判文ニ同居人別ヲ送りタルハ送籍
 ニ非ラストノ限リモ之レナク依テ彦藏ノ書面証據ニ相立タスト裁
 判セラレタルハ不法ト思料ス

一六郎ハ元來六郎兵衛ノ隠居籍ノモノニ之レアリ就テハ六郎死後
 ハ六郎兵衛へ返却ス可キハ正當ノ儀ニ之レアルハ無論ナルニ東京
 上等裁判所ハ六郎兵衛ニ渡セシ金圓ノ証書ヲ以テ原告ヘ對スル義
 務ヲ免カル可キニ非ス依テ原告(上告ノ被告)請求ノ通り証文面ノ金高七
 百五拾圓被告(上告ノ原告)ヨリ返却致ス可シト裁判セラレシハ不法ナリ

右ノ通りナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀ノ上更ニ至當ノ裁判アラントヲ請願ス

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一項 新材木町戸籍面芳松云々ノ貼付ハ不都合ノ段曾テ申立置

シニ其ノ説明モナクシテ此貼付ヲ採用ニナリタリトノ丁

第二項 六郎ノ江戸住居ノ一家別立セシニ非ラスシテ隠居セシト

ハ爲取換一札ニ判然タリトノ丁

第三項 堀江村用掛リ彦藏ヨリ曾テ六郎カ同居人別ヲ送リタル以

來送籍致シタル覺エ一切之レナシト申立ルニ對シ同居人別ヲ送リ

タルハ送籍ニ非ラストノ限リモ之レナシト採用ナカリシトノ丁

第四項 六郎死後ハ六郎兵衛ニ返却セシハ相當ナリトノ丁

辨明

第一條

亡六郎長男芳松ハ明治二年中本行徳村田所某方へ養子ニ參リ明治八年一月離別ニナリシモノナレハ明治五年十月六郎死去以來一年餘相續セシ旨新材木町ノ戸籍面ニ張紙アルハ不都合ノ段明治九年四月下旬東京上等裁判所へ申立置タリト云フト雖トモ之レヲ東京上等裁判所ノ書類ニ探索スルニ芳松ノ身分上ニ付テハ毫モ申立ノ廉一切アルトナシ仍テサキニ東京上等裁判所ニ於テ申立サリシ事柄ニ對シテハ辨明ヲ與ヘス

第二條

第一號第二號安政六未年十一月爲取換一札ヲ聞スルニ其各第一項ノ末段及ヒ第三項又六郎へ宛シ第四項等ニ於テハ親子同籍ニシテ其父隠居セシ者ニ似タリト雖トモ其他ノ數項及ヒ前後ノ文意ヲ審

案文に六郎が宇田川家ト分離シ其名ハ隱居ノ稱謂ニシテ其實ハ分財別籍セシトハ判然ナリトス況ンヤ第四號ノ如ク六郎兵衛方在籍ノ三人ヲ除キ之レヲ東六郎方ヘ送籍セシヲ以テ視レハ當時已ニ六郎兵衛及ビ該村役人等ニ於テモ六郎ノ一戸ヲ別立セシト認メシテ証アルニ於テチヤ

第三條

大塚彦藏カ六郎ノ深川某宅ヘ同居人別ヲ送リタル以來送籍シタル覺エナシト申立シ其同居人別送リハ即チ當時ソ送籍ナリトス又人ノ家ニ同居スルト否ヤトニヨリ人別送リニ異義アルコトナキヲ以テ東京上等裁判所ハ同居人別ヲ送リタルハ送籍ニアラストノ限リモ無之ト判決シタルハ相當ノ裁判ニシテ不法ト云ラテ得ス

第四條

六郎ハ宇田川家ト分離セシ後東京新材木町ニ於テ一戸ヲ別立セシトハ前第二條辨明ノ通りナレバ六郎ニ對スル義務ハ即チ新材木町六郎跡相續人ニ對シ盡スヘキハ相當ナリトス故ニ東京上等裁判所ハ六郎兵衛ニ渡セシ金圓ノ證書ヲ以テ原告(六郎跡相續人東初太郎)ヘ對スル義務ヲ免カルヘキニ非ラズト裁判セシハ相當ニシテ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

判決

前條々ノ筋合ナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトカ

第八拾四號

○地所建家煉化石製造竈運送船引渡淹滯一件上告ノ判文
明治十年十二月十八日
上告明治十一年五月三十日
申明渡

原告

東京府第貳大區六小區
麻布市兵衛町一丁目九
番地華族大村純義代人
同所寄留長崎縣士族

鈴木健五郎

被告

東京府第六大區貳小區
深川和倉町四十四番地
寄留高知縣士族福富六
郎兵衛代人
東京第十大區一小區金
杉村八十丸番地平民
山岸富三郎

東京上等裁判所ノ判文

地所建家煉化石製造竈運送船引渡一件東京裁判所ノ裁判不服トテ

控訴スルニ付審理判決スル左ノ如シ

第一條

被告人ニ於テ該訴第一號証

本文第一號証讓渡之証

武藏國葛飾郡小菅村ノ内大繩ノ内

一畑三町八反三畝拾壹步

一建家拾貳棟

内譯

一表門左長屋

一同右長屋

五間梁桁行

三拾五間

壹棟

壹棟

- 一 中長屋 五間同貳 壹棟
- 一 同 拾五間 壹棟
- 一 同 三間同 壹棟
- 一 同 七間 壹棟
- 一 同 四間四方 壹棟
- 一 裏門番所 貳間梁桁行 貳棟
- 一 納屋藏 四間 貳棟
- 一 新規取立細工場 壹棟
- 一 外國人傳習煉化石製造竈 壹棟
- 一 運送船 五艘

右代金壹万五千圓也

右代價正ニ請取讓渡申處實正也此場所ノ義ニ付外方ヨリ故障申出者決テ無之候万一異議申立候共拙者共引請聊御苦勞相懸ケ申問敷候爲後日讓渡之証仍而如件

讓主

明治八年一月廿四日

穴戶直馬印

同

福富六郎兵衛印

証人

岸本圓藏印

大村家會計掛

山川前耀殿

鈴木健五郎殿

永田彦一殿

前書之通相違無御座ニ付與印致置候也

十一大區一小區

副戸長

吉田 孝 助印

ノ措置ハ引合証人永田彦一ヲ代理セシメタルモ其他原告人ニテ主張スル第四號第五號証

本文第四號証條約書

明治八年第一月武藏國葛飾郡小菅村ニ取設有之精煉社第二番竈ヲ永田氏ニテ讓受跡製造等福富氏引受候ニ付爲取替定約左ノ通

一右第貳番竈負債金高貳萬六千六百五拾圓ノ内壹萬圓ハ兼テ大村家ヨリ借入分ヲ永田氏ニ於テ引受追々右竈爲仕込金當二月ヨリ六月迄ニ永田氏ヨリ更ニ五千圓出金束テ壹萬五千圓ノ証書ヲ以テ讓受製造相初候月ヨリ一番二番兩竈ノ益金ヲ以テ一

ケ月五百圓宛受取可申事

一殘負債金壹萬六千六百五拾圓ハ割拂ノ方法ヲ以テ右兩竈ノ益金ヨリ一ケ月三百圓宛拂入候様可致事

但月々受取候五百圓ト拂込三百圓束テ八百圓ノ利益相生ル丈ケノ煉化石ハ屹度製出可致事

一金銀出納掛リハ永田氏ヨリ壹名差備月々會計福富氏ト立合遂精算調書受取可申事

一福富氏ハ右利益相生ル丈ケノ煉化石製出ノ事ニ注意シ右兩場所取締候上ハ掛リ人員黜陟等ノ事ヲ可司權有之ヘシ事

但シ前條之通金八百圓月々受取且拂入候殘益金ヲ以テ掛リ人員ノ給料等ハ福富氏ノ適宜ニ任セ追々右品代價騰貴致シ格別ノ益金有之ニオイテハ時宜ニ應シ更ニ定約爲取替可申

事

一前條之通永田氏ヨリ出金ノ員數ニ相應ノ利足ヲ加ヘ返濟有之時ハ盟主ノ方ヘ引戻候共決テ異條申出間敷事
一前條之件々取極メ右土地々券狀建家并製造竈附属ノ諸器械運送船ニ至迄明細書之通讓受申處實正也

明治八年第一月

永田彦一

福富六郎兵衛殿

本文第五號証

前日御定約証書御取替セ面之通今後實効相表シ可申候万一右御定約証書ニ相背候節ハ小菅煉化石貳ノ關係有之候負債壹万六千五百圓ハ拙者引請濟却ノ法方取設ケ貴殿ニ聊御迷惑相懸申間敷候

大鐮町六番地

永田彦一印

明治八年第二月

福富六郎兵衛殿

下
本文負債壹萬六千五百圓ハ壹萬六千六百五拾圓ノ書誤
ケ印リニ御座候也
札
原告人 村尾智實印

ノ如キハ更ニ關係セサル旨申陳スルト雖モ原被告双方ニテ陳述スル如ク彦一ナル者ハ當初ヨリ被告人ノ家從搭ニテ家事ヲモ依托シ
ナキ且ツ本件賣買ノ時モ被告人ノ代理トナリ其後彦一ニテ該地券
ニ第一號証ヲ添ヘ他ヘ抵當ニ差入レタル等ノ事實ト第四號証ノ全
文ニ云々記載シアル趣旨及被告人証類
第二號第三號証書

本文第 二號証 讓渡之証

前書之地所并ニ建家煉化石製造竈其他附屬品共貴殿方ニ御渡申候處實正也然ル上ハ貴殿方ニテ御勝手ニ御所持可被成候爲後日讓渡之証仍而如件

第一大區七小區大鋸

町六番地

明治八年第八月五日

永田 彦 一印

小川前燿殿

鈴田健五郎殿

右繼添之通相違無之ニ付奥印致候也

小菅村

副戸長

吉田 孝 助印

本文第 三號証 添書之事

本年一月廿四日拙者其御兩人ト三名ニテ小菅村内地所并ニ建家運送船煉化石製造竈其外附屬品共別紙明細書之通福富六郎兵衛穴兵直馬ニ讓受候際右金額ハ全ク御兩人ヨリ御差置置被下候ニ付其三分ノ一拙者ヨリ可差出之處不都合ニ付双方示談ノ上其御兩人ニ悉皆引渡候ニ付テハ其節爲後証拙者ヨリ差入候証書ノ由文意拙者壹人之特權ヲ以テ讓渡候姿ニ候得共全ク不心附認メ候儀ニ候間猶此添書ヲ以後証ニ可被成候依之添書如件
明治八年十月廿九日
永田 彦 一印
小菅村 副戸長 吉田 孝 助印
小川前燿殿 鈴田健五郎殿

トチ相参照スルニ被告人ニ於テ訴訟取引ト其經營方トハ最初ヨ
 リ一切彦一ニ委任シアルモノト認定スル事定ルヘシ然レハ則チ假
 令被告大正彦一トノ際ニ紛紜ノ事故アルトモ右被告大正彦一ト
 ノ關涉ニ止マルモ其ノ以テ之ヲ賣主ナル原告人ニ波及スヘキノ理
 由ヲ認ズル事ニ非ズルヲ以テ其ノ關係ニ關シテ原告人ニ及ボス
 前條ノ理由ナルヲ以テ本訴ヲ如キハ被告等於テ原告人ニ對シテ請求
 ナ抵拒シ其地所其外ヲ直ニ引渡シ受シ時申分ハ採用セザル事
 明治十年十月廿四日 出立書 被告等 大村純熙 代理人 鈴木健五郎 上告

大審院 於 是 日 開 庭 審 理 大 村 純 熙 代 理 人 鈴 木 健 五 郎 上 告
 三 號 原 告 書 大 村 純 熙 代 理 人 鈴 木 健 五 郎 上 告
 原 來 原 告 カ 引 渡 シ 訴 ヘ タ ル 物 件 ハ 東 京 府 第 十 一 大 區 一 小 區 小 菅

村九十貳番地ニ建設之レ有ル煉化石製造竈第貳番ト之ニ屬スル建
 家地所運送船等原告第一號証讓渡証ヲ通ニシテ之ヲ讓受タル手續
 ハ兼テ原告ヨリ被告等ヘ貸金有之處屢々遷延シテ返金ヲサズ數度
 証書ヲ換ヘタル末明治八年一月中永田彦一ヲ以テ右物品ヲ買受具
 候様懇々頼談アルニ付テ不得止壹萬五千圓ヲ以テ之ヲ引取ルノ約
 ナシタルト前讓リ証ヲ通ニ有之壹萬圓ハ兼テ以テ貸金ニテ差引五
 千圓ハ即時相渡シタリ尤家扶山川前燿家從鈴木健五郎及ヒ永田彦
 一ヲ遣シ實際取調ノ上契約ヲ整頓セシニ付キ右三名代理ノ名義ヲ
 以テ第一號証ヲ受取リタリ然レハ被告ニ於テハ速ニ契約ノ通り履
 行スヘキニ屢催促スレテ依違日ヲ送ル事以テ取詰掛合及フ所永
 田彦一ト別約アル旨申張リテ引渡サ、以テ右被告大正彦一ト
 隨意ノ契約ニシテ原告カ關スル所ニ及ボザルニヨリ速カニ引渡シ

受度旨東京裁判所へ出訴セシ處原告請求ノ通り裁判相成リタル
 被告ヨリ控訴ノ末東京上等裁判所ニ於テ申渡書ヲ通不法ノ裁判
 ナ遂ケラレタルニ付此段上告シ不法ノ廢々左ニ陳述スル
 第一條
 凡ソ代理者タルモノハ本人ヨリ委任サレタル權限内ノ事ヲ取扱ヒ
 本人ノ爲メニ利益ヲ謀ルモノナレバ委任ノ權外ノ事ヲ契約シ或ハ
 本人ノ損害トナルヘキヲ契約シタル時ハ其契約ハ効ナキモノナ
 リ總理代人ト雖モ皆然ラザルナシ永田彦一カ該件ニ於ルカ如キハ
 部理代人ナルモノハテ部理ノ全權アルニアラス則チ其一部分ヲ
 有スルニ止マルモノニシテ山川前耀鈴田健五郎ト共ニ第一號証夫
 被告ヨリ受取リ之ヲ原告本人ニ渡スヲ以テ其委任ノ權限ヲ満足ス
 ルモノトテ其他ノ契約ハ總テ委任ノ權外ニシテ永田彦一ノ私事ナ

ルヲ以テ固ヨリ原告ニ於テ關知スルノ理ナシ然ルニ東京上等裁判
 所判文第一條ノ要旨ヲ約言スレバ永田彦一ハ原告大村純熙ノ代理
 者ナルニ由リ其所爲ハ都テ大村純熙於テ關係ヲ免ル可ラスト云
 フノ意ナルカ如シ之ヲ不法ノ裁判ト云ハサル可ラス
 第二條
 原告ノ家事ハ自ラ之ヲ爲ストアリ其自ラ爲サハルハ家令アリ家
 扶アリ家從アリ各之ヲ分掌セシメ曾テ外人ヲシテ家事ニ關涉セシ
 ムルコトナシ其永田彦一チ家從格トナシタルモノハ朝夕出入スル所
 ノ商人則チ外賓ヲ待遇スル所ノ名ニシテ固ヨリ家事ニ關涉スルノ
 名ニアラス亦代理者タルノ名ニアラス故ニ原被告及ヒ永田彦一ニ
 於テモ家事ヲモ委託シタリトノ一言ハ未タ曾テ申陳セサル所ナル
 ニ判文中原被告双方ニテ陳述スル如ク家事ヲモ委託シ置云々トア

ルハ不法ノ最モ甚シキ裁判ナリ
 第三條
 凡テ不動産ニ屬スルモノハ書類ト雖モ之ヲ抵當トナスニハ成規ニ
 ヲリテ其手續キテ爲サ、ルヲ得サルニ原告ニ於テハ彦一カ第一號
 証ヲ抵當トナシタルコトヲ知ラス其役場ニ於テモ之ヲ知ラス又其証
 書面ニモ抵當ノ手續ヲナシタル跡ヲ留メス殊ニ該証書ニハ彦一ノ
 名アルモ本人ノ名義ヲ肩書ニ記載アル上ハ彦一ニ於テ私擅ニ抵當
 トナスヲ得サルハ明了ナルニ東京上等裁判官ハ何ニヨリテ抵當ト
 ナシタルコトヲ信認セラレタルガ其手續キテ至リテハ一ノ推糺モナ
 シ直チニ彦一ノ口供ニヨリテ他ハ抵當ニ差入レ云々ト被申渡タル
 ハ頗ル速了ノ見解ニシテ不法ノ裁判ト云ハル者大ニ遺憾ナリ
 第四條

仮令眞成ニ第一號証ヲ抵當トナシタルトスルモ原告ニ於テ第四號
 第五號証ノ契約ヲ彦一ハ代理セシメタル証トハナラサルニ抵當ニ
 差入レタル事實ト云々トテ參照スレハ云々委任シアルモノト認定
 ズル當足ルト判決セザレズルハ頗ル不法ト云ハサルヲ得ス
 第五條
 第四號証書ハ永田彦一ト被告ト第一番竈第二番竈ノ入費ヲ分擔シ
 該兩竈ノ利益ヲ分有スルノ契約ト見ヘタリ而テ原告ニ於テ毫モ該
 書ヲ知ラズ所以ハ其第一番竈ハ他人ノ所有ニシテ原告ニ於テハ
 曾テ關係セザリテ第二番竈ハ第一號証書ヲ以テ原告ヘ讓リ受ケ
 たり下雖モ原告於テハ該竈ノ營業入費利益等ヲ彦一ハ代理セシ
 ムルヲ委任ヲ爲シタルコトナシ又其大村家云々永田氏云々トアリテ
 原告ヲ客位ニ置キタル文言ナルト又單ニ永田彦一ノ名印ノミニシ

テ原告之代理タルノ証左ナキトテ以テモ原告カ該書ヲ關知セサル
 丁明瞭ニシテ彦一モ原告ハ決シテ之ヲ知ラサル旨ヲ証言セシニ東
 府上等裁判所ノ裁判官ハ何等ノ辨明モナク第四號証ノ全文ニ云々
 記載シアル趣旨云々相参照スルニ云々委任シアルモノト認定スル
 ニ足ルト被申渡タルハ益不法ノ裁判ナリ
 第六條
 原來該契約ハ原告ノ名義ヲ以テ山川前耀鈴田健五郎永田彦一三人
 カ取扱フタルモノニシテ其讓リ受ケタル所ノ竈ハ原告ノ所有ナル
 丁ハ論ヲ待タサレモ猶永田彦一カ該件ノ關係ヲ解キタルコト明確
 ニセシカ爲メ第二號第三號ヲ調成セシモノナルヲ以テ該兩號ノ書
 ハ永田原告トノ間ニ止マルモノニシテ固ヨリ原被告ノ間ニ關係
 アルモノニアラス故ニ被告ニ於テモ曾テ該書ノ事ヲ論シタルコトナ

シ然ルテ該件ニ關係深キ確証ナルカ如ク直チニ參照云々ト判決セ
 ラシタルハ最不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス

第七條

該件ハ山川前耀鈴田健五郎永田彦一三人ハ委任セシヲ以テ第一號
 証ニ三人名記載アリ而テ代理者ハ本人ノ名義ヲ以テ委任ノ權限ヲ
 取扱フモノナルニ由リ第一號証ニハ原告ノ名義ヲ記載アリ之ニ反
 シテ第四號第五號証ニハ永田彦一ノ名義ヲ以テ且原告ノ名義
 ナモ掲ケサルヲ以テ彦一ノ私事ノ証ナルコト并ニ原告ハ曾テ關知セ
 シコトナキハ一目瞭然ナリ且ツ前陳ノ如ク最初ヨリ三人ハ委任セシ
 モノニシテ曾テ彦一一名ハ委任セシコトナキハ第一號証ニ依テ明瞭
 ナルニ最初ヨリ一切彦一ハ委任シアルモノト云々被申渡タルハ不
 法モ亦甚シカラズヤ

前條に陳述スル通東京上等裁判所ノ裁判ハ徹頭徹尾不條理不適法ニシテ原告ノ權利ヲ妨害スルモノニ付破毀ヲ乞フ所以ナリ

被告 福富六郎兵衛代込山岸富三郎答辨 明治十一年四月三十日

元來原告ヨリ引渡ヲ訴ムル物件ハ東京府下小菅村ニ建設有之煉化石製造竈第二番ト之ニ屬スル建家地所運送船等別紙第一號ト通明治八年一月廿四日取極メ内金壹万圓ヲ會テ原告ヨリ借入金有之由付物件讓渡証 取極メ内金壹万圓ハ會テ原告ヨリ借入金有之由付該借用証書ヲ返戻ヲ受テ殘金五千圓ハ則チ第四號月付ヲ取爲換約定契約書ヲ以テ受取テ然ルニ該契約ヲ背キタルニ付第五治証書 八年三月付ハ二番竈ノ負債ヲ受取タル儀ニ付原告陳述スル如ク債カ原告ガ引受ベキ証 証ヲ受取タル儀ニ付原告陳述スル如ク五千圓ヲ即時受取ルニオキテハ第四號第五號証ノ成立ツヘキ所以無之又原告ガ永田彦一別約アル旨申張種々申立ルト雖モ抑該件ノ起立ヨリ一切取引ノハ永田彦一ヲ以テ大村純熙ノ代人ト見認

又原告ニ於テモ彦一ヲシテ該件引取ノ擔當ヲ爲サシメ及ヒ第四號第五號ノ証ヲ違背セシト等ノ証左逐條左ニ開陳仕候

第一條

上告狀第一條ニ曰ク凡ソ代理者タル者ハ本人ノ損害トナルヘキコトヲ契約スルハ其効ナキモノナリト之レ何ソ等ノ暴言シヤ凡代理者タル者ハ本人ノ權利ヲ分有シ其事務ヲ執行シモノニシテ其利害得失ノ如キハ却テ其本人ニ於テモ代理ノ委任ヲ解カサル限りハ之レヨ是非スルノ權利無之モノナリ加之該件ニ於テ永田彦一カ代理者ニテ取結タル契約ノ如キハ大ヒニ本人ノ利益ヲ與フルノ契約ナリ如何ノトナレハ原告カ一時ニ拂フヘキ金圓ヲシテ五ヶ月割拂ノ契約爲シタルニ於テハ其利害得失ハ一月ニシテ知ル瞭然ナリ原告又曰ク永田彦一カ該件ニ於ルカ如キハ部理代人ナル一人ニテ部理

ノ全權アルニ非ス則其一部分ヲ有スルニ止ルモノニシテト之則第一號証ノ表面ヨリ論シ來レルモノニシテ實際山川前燿等三名ヲ以テ代理者トナシ取引上都テ三名カ擔當セシモノナルニ於テハ殘金五千圓ヲ授受スルニモ三名立會ヲ要スヘキハ勿論其面前ニ於テ授受セシナラハ何ソ第四號ノ契約ヲ爲スアランヤ實ニ五千圓金ニ換ル契約書ニシテ原告カ前項ニ申立ル五千圓即時相渡タリトハ何人ト授受ヲ爲シタルカ被告ニ於テハ之ヲ虛妄ノ申立ト言ワサルヲ得ス原告又曰ク彦一ハ與ヘタル委任ノ權限ヲ論スル凡夫此條ニ於テハ之レヲ論スル迄モナク後條ニ於テ自ラ彦一カ第四號第五號証ノ契約ヲ取結フ迄ノ權ヲ有スル迄ニ達スルヲ辨明スヘシ

第二條

上告狀第二條ニ曰ク永田彦一カ家從格ノ辨明ハ該件ニ於テ要用ノ

點ヲ見出サ、ルニ付別段答辨爲サス

第三條

上告狀第三條第四條ニ曰ク永田彦一カ第一號証ヲ抵當ニ差入タルコトノ信僞ヲ喋々論辨スルト雖モ抑此事タルヤ原告カ第二號第三號被告ヨリ原告ヘ該物件ヲ讓渡タル証ノ辨明ヲ爲サンカ爲メ自ラ之証ヘ永田彦一ヨリ亦附シタル証ニ於テ左ノ口供及ヒ始末書ヲ差出セリ又チ吐露シ則チ初審裁判所ニ於テ左ノ口供及ヒ始末書ヲ差出セリ又終審裁判所ニ於テモ原被告ノ申口符合シ則チ裁判狀中抵當ニ差入タル等ノ事ノ事實ト第四號証ノ全文ニ云々記載シアル趣旨及ヒ被告人証類第二號第三號証書トヲ相参照スルニ被告人ニ於テハ本訴取引ト其經營方トハ最初ヨリ一切彦一ニ委任シアルモノト認定スルニ足ルヘシノ明文ヲ掲ケラレタルモノニシテ之レヲ速了ノ見解頗ル不法ノ裁判ナリト云ハ必ス上告者ハ此上告狀ヲ認メルトニ臨ミ

之ヲ忘却セシモノト想像セサルヲ得サルナリ明治十年五月廿九日
 口供ニ曰ク(永田彦一ヨリ第二號讓渡証ヲ受取シ主意ハ右彦一ヨリ
 第一號証文中ノ地券名前ヲ大村家ニ書換フルトノ趣キニシテ暫時
 該証貸與トノコトニ付其意ニ任セシ處名面書替ハ不致シテ却テ恣ニ
 茨城縣廳ヘ抵當ニ差入シ事ニ付按外ノ事故驚キ入タリ却テ嚴重談
 判ノ末漸クシテ取戻シヨリ明治十年六月廿九日始末書ニ曰ク(明治
 八年一月廿四日福富等ヨリ物件買取ノ際地券狀書替サルニ付名前
 書替可申候間券狀并証書共相渡置候様申候故渡置候處証文上永田
 名面アルヲ以其際自儘ニ同人ヨリ茨城縣廳ヘ負債抵當ニ差入候コ
 後日大村家ニ於テ聞及ビ候旨付嚴敷談判漸ク取戻シ候得共証書上
 同人ノ名義記載アリテハ後日再ヒ如何様ノ不都合相釀可申哉モ難
 計ニ付同人ノ名義ヲ相除度存シ除名ノ工風無之不得止讓渡証ニ相

認候得共其實大村家一己ノ買取品ニシテ永田連帶スヘキ事件ニ無
 之今日ヨリ相考候ハ右手數ハ全無用ニ属シ且讓証云々ハ最モ不
 都合ニ御座候ヘ共其意タルヤ後害ヲ防シ爲メ大村家ニ取置候証書
 並御座候ヘ共証書並彦一ノ名前ヲ直ニ塗抹候モ同様ノ事柄ト心得
 右証相認候儀(御座候)

第四條

上告狀第五條ニ曰ク第四號証書ハ永田彦一ト被告ト第一番竈第二
 番竈ノ入費ヲ分擔シ該兩竈ノ利益亦分有タルノ契約ヲ見タリ而
 シテ原告ニ於テ毫モ該書ヲ知ラサル所以下申立シテ原告於該証ノ
 根元ヲ論セタシテ文意ナル枝葉ニ涉リ之ヲ論ズルニ到底無用ノ辦
 ト云ワサルヘカ夫被告答書第一條ニ辨ズル如ク五千圓ノ金額ヲ
 授受セサルヨリ成立案タル者ニシテ其文言ヲ如キハ大村家ト云ヒ

永田氏ト云ヒ物件讓渡人ニ於テ何ソ之ヲ擇ツヲ要セシヤ素ヨリ彦一ハ第一號証ヲ連名セル代理人ニシテ又實際該件ノ擔當者タルハ當時被告ニ於テ之ヲ信認シ後日原告カ第二號第三號証ノ辨明ニ於テ益々之ヲ堅カラシメ則第二號第三號証ヲ以テ確手タル擔當者ノ証左ヲ得タルニ於テハ今日ニ當テ原告ノ申立コソ委任權限ヲ証明スヘキモノヲ見サレカ

第五條

上告狀第六條ニ曰ク永田彦一カ該件ノ關係ヲ解キタルトナリ明確ニセシカ爲メ第二號第三號ヲ調成セシモノナルヲ以テ該兩號ノ書ハ永田ト原告トノ間ニ止マルモノニシテ固ヨリ原被告ノ間ニ關係アルモノニ非ス故ニ被告ニ於テモ曾テ該証ノ事ヲ論シタルトナシト申立レ尼被告ニ於テ第二號第三號証ハ彦一カ該件ノ擔當者タルノ權

理ヲ有スルトナリ明確ニセシカ爲メ訟庭ニ於テ屢辨論引証セシトハ裁判官ニ於テ之ヲ確認セラレタルトナリ又原告カ第一條ニ彦一ハ山川前耀鈴田健五郎ト共ニ第一號証ヲ被告ヨリ受取之ヲ原告本人ヘ渡テ以テ其委任ノ權限ヲ満足スルモノト申立シ尼最初彦一カ夫迄ノ權限者ナルニ於テハ本條ニ第二號第三號証ヲ調成セシ辨解ト大イニ矛盾シタル申立ニシテ則チ原告第五條ニ向ツテ被告答フル第四條ノ辨解ニ當テ意味ヲ含蓄シタルトハ本條原告カ曖昧ナル申立ニ就キ之ヲ看ルニ足リ

第六條

上告狀第七條ノ文意ハ敢テ本條ニ答辨セサルモ第四號証ハ原告者カ關知スルトハ前條々ニ開陳スル處ヲ以テ自ラ分明ナリ右ハ上告狀ニ對スル答辨迄ニシテ未タ該訴ノ趣意ヲ尽サ、ルニ付

左ニ開陳シテ以テ前條々ノ主旨ヲ明ツカニス
 抑該訴ノ起因タルヤ第一號証第四號証ヲ以テ明治八年一月中物件
 賣買ヲ約シ同第三月中迄第四號証ノ契約ヲ執行セサルヲ以テ不得
 止第五號証ノ契約ヲ取結ヒタレ其後明治八年十月中迄孰レノ契
 約ヲモ實行セサルニ付再應掛合ニ及フ處山川前耀ニ於テハ鈴田健
 五郎遠行不在中猶豫受ケ度旨依頼ニ及ハレ猶豫ヲ與セシ處明治八
 年十月廿七日ニ至リ左ノ書面ヲ差越シタリ
 拜呈陳ハ頃日ハ毎度御尋被下難有奉謝候其節御申聞ノ小菅一
 鈴田ニモ一昨夕歸邸ニ付不取敢申談候處此方ニテハ何又差支モ
 無之候間思召ニ御取計有之度右御禮旁一通申上候也
 麻布市兵衛町一丁目
 九番地

十月廿七日

山川 前 耀

五郎兵衛町廿三番地ニテ

岡崎重之様

而シテ突然其翌日東京裁判所へ出訴及セシ譯ニシテ却テ被告ト相
 成出庭シタリ夫ヨリ追々御審問有之金錢出納精算帳モ原被立會ニ
 テ別紙第六號東京裁判所へ差出シタル精算書ナリノ通差出シタル上ハ別紙第七號明
 十年八月二十八日東京上等裁ノ金額ハ原告ヨリ相拂ヒ物件引取方
 判所へ差出シタル精算調書ノ金額ハ原告ヨリ相拂ヒ物件引取方
 ナ可請求筋ナル處東京裁判所ハ其事ヲ閣々直ニ物件ヲ可引渡旨御
 裁判相成不服ニ付控訴仕御審問ノ節別紙第八號第九號ノ書類ヲ以
 テ明治十年十月五日明治十年十月二十三日兩度ニ東 都テ精算濟ノ
 上御裁判相成則チ金壹万三千三百九拾五圓拾四錢八厘壹毛ノ請求
 ナ抵拒シテ地所其外チ直ニ引渡受ントノ申分ハ採用セサル旨御裁

判相成タル譯ニテ原告カ喋々不法ナリト辨論スル處ハ元來原告カ不法ノ申立ヲ矯止セラレタルモノニシテ終審御裁判狀ニ於テハ決テ不法ノ廉毫モ無之ト思料セリ

原告 代人鈴田健五郎上告ノ追加 明治十一年五月廿四日

第八條

元來該訴訟ハ原告ニ於テ地所建家煉化石製造竈運送船等ノ引渡ヲ請求シタルニ起リテ其物件ハ公正ノ手續ヲ經テ所有ノ權已ニ原告ニ移リ其契約書則チ原被告ヨリ差出シタル証據書類中ニモ第四號第五號証等ヲ履行スルニアラサシハ物件ヲ引渡サハルノ契約等ニモ之レナケレハ縱令原告ニ於テ第四號五號ヲ關知セサルヲ得ス第五號証等ヲ履行セサルヲ得サルモノトスルモ原告ニ於テ物件引渡ヲ請求スルニ被告ニ於テ抵拒スル理ナキヤ明カナリ被告若シ差引

計算アルハ之ヲ別段ニ訴フ可シ決テ彼此相混同牽連セシムルヲ得ス然ルチ直チニ引渡ヲ受ケントノ被告申分不採用事トアルハ不法ト奉存候

被告 代人山岸富三郎上告追加第八條ノ答辨 明治十一年五月廿七日

原告ニ於テ被告ヨリ既ニ物件引渡ノ儀夫上告セサル云々申立ルヲ開始テ物件引渡并ニ計算上ニ付進加上告ニ及フモ何ソ其効ヲ有セシヤ若其効ヲ有スルトセハ追加ノ幾條ニ到ルヲ知ラズ遂ニ上告期限後上告スルノ理ニ至ルモノト思考候ニ付答辨仕モ贅言ナレ左ニ其申立ノ非ヲ述シ
原告ニ於テ物件引渡ヲ請求スルニ被告ニ於テ抵拒スル理ナキヤ明ナリ云々申立レテ該物件ニ關セシ被告ノ請求金ナレハ其附帶セシ可論ヲ俟タス然ルチ原告ハ自ラ負ヒシ義務ヲ盡サスシテ物件ノミ

ヲ受取ラントスルハ猶或物ヲ買ヒ代價ヲ全ク拂ハスシテ其物件ヲ
 請求スルカ如シ其不條理ナル明ナリ又原告ニ於テ計算アラハ之ヲ
 別段ニ訴フヘシ決テ彼是相混同牽連セシムルヲ得ス云々終審々理
 中之ヲ申立スシテ上告ニ至テ始テ申立ルハ理ノ當ニ有スヘカラサ
 ルトナリ

右ノ通ニ付明治十一年五月廿一日呈供セシ上申書ニ御照合奉願候
 辨明

東京上等裁判所判文ニ掲ケタル永田彦一ニ當初ヨリ原告人ノ家事
 ナモ委託シアルト永田彦一カ本件地所地券ニ第二號証書ヲ添ヘ他
 へ抵當ニ差入タルト被告人第四號証書ノ一等ハ何レモ原告人ノ承
 認ヲ經サル者ニ係レハ先此証據類ノ果シテ原告人ニ關係アルヤヲ
 判斷シタル後ニアラサレハ其事實ト其文意ヲ相參照シテ原告人カ

本件取引ト其營業トハ最初ヨリ永田彦一ニ委任シタル者ト定ム可
 ラサルナリ何トナレハ其永田彦一カ當初ヨリ原告人ノ家事ヲモ委
 托受タリトハ原告人ノ陳述中ニ見出サ、ル處又永田彦一カ地券ヲ
 他へ抵當ニ差入タルトハ永田彦一カ所爲トズル處被告人第四號証
 書ハ原告人ノ初メヨリ關係ナシトスル處然ラバ此証據類ハ永田彦
 一カ本件ノ取引ト其營業トハ最初ヨリ一切委任受ケタリト云フト
 ノ爲メニ直チニ關係ヲ持タサル者ニ付先之ガ判斷ヲ爲サ、レハ此
 証據類ハ如何ナル關係アルヲ以テ其委任シタルトテ認ムヘキ力ア
 ル者ナルヤ其理由ヲ知ル可ラサレハナリ然ルニ東京上等裁判所ノ
 裁判ハ右証據類ノ判斷ヲ爲サス直チニ之ヲ相參照シテ本案ノ裁判
 ヲ爲シタル者ニ付之ヲ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ付東京上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ大阪上等裁判所
移スニ付更ニ可受同所ノ裁判者也

第八拾五號

○山論上告ノ判文 明治十年六月十一日申告

原告

新瀉縣下第三大區七

小區越後國魚沼郡野田

村

同縣下同國同郡君歸村

右野田村平民

中 俣田要次郎

被告

新瀉縣下第三大區五

小區越後國魚沼郡

欠ノ上村

東京上等裁判所ノ審判

原告

欠ノ上村惣代庭野六松外一人控訴ノ要領 明治九年

被告

野田村君歸村ヨリ字峠山下唱へ詞訟ニ及ヒタル論所ニ原告ニ於テ字

澤山下唱ナル地内ニテ右澤山東北ハ被告野田村及川窪村両村入會

字清水峠山ニ接シ南ノ方ハ原告欠ノ上村持地字油田山ニ境シ西ハ

魚沼郡十日町分地ヲ限リ實地反別今般分檢ノ上取調タル處貳百三

拾町步ニテ其内論所百九拾町步論外地四拾町步ノ場所ハ悉皆舊來

原告欠ノ上村并六日町兩村ノ入會ナリ其証ハ原告欠ノ上村ニシテ

寶曆十一年ヨリ年々山手米貳升ツ、貢納セリ

本文山手米ノ儀割付帳寫ニアル處左ノ如シ

巴御年貢可納割付之事

魚沼郡十日町

野田村

野田村

野田村

一高百三拾五石三斗壹升六合

越後國魚沼郡
欠野上村

此譯

中畧

外

一米三升

當巳年ヨリ定納
山手米

六日町村入會

一米貳升

右同

一米壹合

口米

右ハ寅ヨリ午迄五々年定免ノ内當巳年御取箇書面之通候條大
小百姓入作之者迄立會無高下令割合來極月十日限急度可皆濟
者也

寶曆十一年巳十月

宮村孫左衛門印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

巳御年貢割付之事

一高百三拾五石三斗壹升六合

越後國魚沼郡
欠ノ上村

此譯

中略

外

一米壹升五合

當巳ヨリ定納
山手米

一米三升

巳ヨリ定納
山手米

六日町村入會
欠ノ上村

一米貳升

是ハ六日町村ハ山高定納ニ付山手米除之

下略

右ハ當巳ヨリ寅迄十ヶ年定免ノ内御成箇書面之通候條村中大
小ノ百姓出作ノ者迄立會無高下割合之年々極月十日限急度可
令皆濟者也

安永二巳年十月

高橋 伴助印

木本 内藏丞印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

同 斷

山手米

未貢納割附之事

一高百三拾五石三斗壹升六合

越後國魚沼郡
欠之上村

此反別貳拾町九反四畝壹步

中略

外

一米壹升五合

定納

山手米

一米三升

同斷

右同斷

六日町村入會
欠ノ上村

同斷

右同斷

一米貳升

以下略之

右ハ當未貢納書面ノ通相極候條村中大小ノ百姓入作ノ者迄不
殘立會無甲乙割合之來ル極月十日限急度可令皆濟モ也

明治四年十月 柏崎縣 應印

右村

庄屋

組頭

惣百姓

六日町村ニテハ起發不知右年度以前ヨリ毎年山手米貳石五斗ツ、
 貢納セリ右ノ通り兩村ニテ納稅入會且ツ該山地元ハ原告欠ノ上村
 ニ屬スルカ故ニ其山麓ニアリ田地ハ悉ク原告村ノ進退地ナリ尤該
 山ハ原告欠ノ上并川窪兩村用水ノ源山ニ付入會 欠ノ上兩村ニ於テ
 モ大木ハ伐採セス唯秣田肥及ヒ小柴而已ヲ蒔取ノ仕來リナリ仍テ
 明治六年四月中欠ノ上六日町兩村ヨリ舊柏崎縣へ差出シ現今新潟
 縣廳へ引繼アル地券調帳ニ欠ノ上六日町兩村入會字澤山ノ山手米

及ヒ地境等書載セ被告野田村戸長ニテ當地地方世話掛リヲ兼タル

中俟會一郎モ調印セリ其書面左ノ如シ

字澤山入會山

一山手米貳石五斗四升五合

譯 米四升五合
米貳石五斗

欠ノ上村
六日町村

戸長

中俟 利作印

右兩村ニテ御上納仕來申候 六日町村

戸長

宮内 又作印

此實 大繩反別三百町步

但水尾田水不足ニ付舊來ニリ双
村共留ト申都テ大木ハ伐不申候

此代金四百六拾圓

僅 東村并方清水峠野田村川窪村地境北西ノ方同郡妻有十日
持方地境上村
右山嶮岨場廣ニ付退テ精細取調書上申候
右之通取調奉書上候處相違無御座候以上

副戶長

明治六癸酉年四月

山口 五八印

中保 利 作印

六日町村

副戶長

黒川 清 作印

若シ該山ハ被告(野田村) 訴セタル如ク野田村ノ入會來リタル地ナレバ
其戶長(中保) 於テ右調帳ニ押印スヘキ謂レナク却テ右調
書ニ四方境界判然タル東北宇清水峠山境迄一圖原告ノ進退地
若シ該山ハ被告(野田村) 訴セタル如ク野田村ノ入會來リタル地ナレバ
其戶長(中保) 於テ右調帳ニ押印スヘキ謂レナク却テ右調
書ニ四方境界判然タル東北宇清水峠山境迄一圖原告ノ進退地

中保 曾 一郎印

ルト以証確ナリ是レ該山地ニ被告野田君歸村ノ關係ニ及ビ地ニ
 非スシテ舊來原告(上村)及モ六日町村兩村限入會來リタルニ相違無
 之然ルニ初審新潟裁判所ニ於テ元祿度ノ裁許者以テ被告君歸村
 モ關係アルト認メラレタレモ該裁許圖裏書ハ原因油田山ノ爭論ニ
 就キ製造ナルトハ明瞭ナリ

越後國魚沼郡六日町組君歸村欠ノ上村山出入裁許

欠之上村ヨリ中ハ此方持山油田山へ當三月木伐ニ罷越候處君
 歸村ノモノモ大勢出ナクマサカリ押取候由申之
 君歸村ノ者モ申ハ此方分ニ油田ト申前々ヨリ兩村入會申處欠
 ノ上村ノ者當三月十二日此方ノ者モ木伐ニ參リ候得ハ欠ノ
 上村ノ者モ木ヲ被押取罷歸候同十三日又候木ヲ伐リニ參候
 得ハ欠ノ上村ノ者共山へ入申間敷ト申ニ付テ爲証據欠ノ上村

ナク七挺マサカリニ挺取置候由申之

右立會繪圖ヲ以テ令詮議候處君歸村ヨリ申處証據証文等モ無之
 候先年六日町村ノ者ト山出入有之此節ノ証文申立ニ致候得共此
 儀一切論所ニ手傳候儀ニ無之候右ハ水ノ尾山ノ儀ハ君歸欠ノ上
 野田三ヶ村分峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤山ト有之然レハ右三
 ヶ村分峠山ト相見候故一向君歸ノ地ニハ不限候處君歸村地續候
 様ニ申段是又証據ニ難成候惣テ入會山ニハ互ニ申會候ハ、搭別
 無左候テハ木立モ不爲致平地ニハ田畑モ不爲致儀ニ候今度出入
 申立候論所ノ内ニ欠ノ上村ノ田畑モ有之テ君歸村ノ田畑一枚モ
 不相見候然ハ欠ノ上村ノ地ニ無紛候君歸ノ申分證據不相見候論
 所ノ道筋有之由申立候得モ右道筋不儘ニ候間自今以後君歸村
 ヨリ右論所へ一切手入致間敷候爲以後繪圖ノ面ニ墨筋引之双方

〜相渡シ置條堅可相守若違背致三於テ欲得御下知急度曲事可申付モノ也

元祿十五年九月

然レハ油田山ノ地ニ適當シタル証ヲ以テ適當セザル所以峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤山ノ確証トハ爲シ難カルベシ何トナレハ其裁許文中先年六日町村ノ者ト山出入有之此節ノ証文申立ニ致候得共此義一切論所ニ手傳候義ニ無之云々ト記載シアリテ今般論地ノ澤山ヲ當時ニ於テ裁判セシニ非スシテ油田山ヲ裁決シタルモノナレハナリ勿論被告(野田)兩村ニ於テ澤山ハ關係アルトシ申立ニ當ルベキ証文君歸村ニ有之様該圖裏書中ニ見ユレモ被告ニ於テ今ニ至ルマテ該証文ヲ不差出テ以テ見レハ君歸村ニ所藏セサルヲ知ルベシ又舊柏崎縣ニ差出シタル調帳ニ記載アル地境ハ四方ノ地境ニ接ス

ル村々ニ無洩談判ヲ遂ケ各村立會明記シタルモノニテ一己ノ私ヲ以テ記載セシニ非ス然ルニ被告ニ於テ此調帳ニ連署セル中俣曾一郎ノ調印ハ野田村戸長ノ役儀ヲ以テナシタルモノニアラスシテ地券世話掛リノ名義ヲ以テ調印ナシタルトシ陳述アレモ元來曾一郎ナルモノハ野田村戸長タル役儀ヲ以テ地券調ノ爲メ柏崎町迄出頭シタルモノニシテ地券世話掛リ役ヲ以テ出頭致シタル儀ニ無之且ツ地券世話掛リヲ受承スレハ戸長役ヲ廢止スルトノ下ハ固ヨリ無之然レハ地券世話掛リノ役モ野田村戸長ノ役モ兼完セシモノナリ其山手米ノ升數書出方ニ相違アルハ該時地券世話掛肝煎總轄大區區長副等都テ地券調方縣廳ノ指令ヲ得テ其受持村々ニ適宜ノ差圖有之勿論地券ノ儀ハ實地精細取調ルヲ旨トシ右調濟ニ至テハ從前ノ税法改正ニテハ素ヨリ數度布告アルニヨリ檢地帳又ハ割付

面等ニ深ク拘泥不致シテ實地ノ精細調ヲ以テ善トスル説論ナリシ
 カ故ニ升數ノ違ヒヲ生セシメナリ又初審ノ判決ニ被告兩村限リ入
 會山手米貢納ノ場所ハ今般論外凡百七拾町步餘ト双方ヨリ申立ル
 山地ト可相心得トアレ其判決ノ如クセハ油田山ト三ヶ村入會山
 トノ間ニ論外地百七拾町步余ノ場所ヲ生ス是畢竟繪圖裏書文中ノ
 云々ニ因レハナリ而シテ該裏書ハ一ノ澤ヨリ四ノ澤山迄ヲ差極メ
 タルモノニ無之且ツ論外百七十町步ト云場所ハ一ヶ所ノ山ニ相違
 ナケレハ初審裁判官カ新々ニ區別シタルモノヲ從前ノ如ク一ヶ所ト
 ナサハ乃チ原告欠ノ上及六日町兩村ニテ山手米貳石五斗貳升ノ貢
 稅地ニ適當スルナリ然ルヲ無稅ノ水源山ニテ原被四ヶ村共關係ア
 ルトノ裁判ハ承服シカマシ且ツ無稅ニハアラサルナリ又元六日町
 組六拾六ヶ村ノ舊郷元々リシ遠藤坦治方ニアル書類別紙第十號中

甲第一條証書ハ天和三年欠ノ上村庄屋及ヒ河窪村庄屋ヨリ奉行所
 ニ差出タリ願書ニテ文中ニ六日町組次ノ上村分ニ澤山下申山御座
 候トアリ又兩方ノ水尾ニ御座候又六日町計リ山手米指上下木計リ
 切申候下有之是ニ因シテ該論地ノ澤山ハ欠ノ上川窪兩村ノ水源山
 ナリ明白ナリ而シテ六日町村ニ於テハ從前山手米上納致シ來リ
 タルハ該水尾澤山ニ適當シタルモノニ相違ナキト瞭々タリ其甲第
 二條ハ貞享二年余川村小栗山村并右兩村ノ新田村ニテ連署セシ書
 面ニテ文中ニ峠澤山下アリ又澤山下モアリ又御法度ノ山云々トシ
 アリ此御法度ノ山下イフハ水源山ニ付大木伐採セラレニ因テナリ
 其甲第三條ナルモノハ六日町善右衛門外四人ノ口書ニテ亦峠澤山
 ト記載アリ又別紙第十一號甲第一條第二條ノ証書モ遠藤坦治方ニテ
 リシモノニテ年號及宛名ナシト雖モ第一條ハ元祿八年第二條ハ元

祿九年ニシテ當時原告村ト君歸村ト油田山ノ争論ノ際君歸村ヨリ
 字日影永坂ヲカケ窪等ニテ波田ト同様ナル旨ヲ主張シ然ルニ付近
 村ナル野田川窪兩村ニ其事實ヲ尋問相成右兩通ノ書面ヲ地頭ニ差
 出セシモノナリ内甲第一條ノ野田川窪兩村庄屋ノ口書ニテ文中ニ
 先年山本村々ト六日町村ト澤山出入ノ刻北南兩至山水落切ニ澤山
 ノ内ニテ拙者共村及水尾山ニ被仰付候云々ト云レニテ被告カ論地
 ハ峠山ニテ澤ヨリ四ノ澤マテ論外ハ澤山ニ區別ナセシハ皆澤山ニ
 唱ヒ事實ニテ所出山地ナル事明カナリ尤右証書ニ山本村々ト拙者
 入仕義不能成ト云レテ原告次以止村ニ於テモ該山各手入メテ
 サルカ如ク所出原告次以止村實曆十三年ニ至リ拙者手入止納シ
 以來六日町村同様山業營ニ來リ水取明瞭ニテ被告君歸野田ト兩
 村ハ今ニ山手米入納メシメテ之ニ出テ之レヲ觀レハ字澤山ハ即

ナ水尾山ニシテ水尾山ハ峠一ノ澤ヨリ四ノ澤迄ヲ唱フル事論ヲ待
 タス然ルニ被告(野田)村ニ於テ澤山ト峠一ノ澤ヨリ四ノ澤迄トハ
 格別ナリト偽リ亦澤山ハ水尾山ニテハ無之旨ヲ主張シ然ノミナシ
 ス水尾山ハ從來無稅地ナリトハ無根ノ申立ナリ但シ原告ニ於テ新
 潟裁判所審問ノ節峠山ハ澤山下格別ナリト申立タルハ誤リニテ實
 ハ峠山モ澤山モ同所ナリ又別紙甲第三條証書ニ此度倉之助儀共御
 村方ノ三ノ澤ニテ青物ヲ盜取リ候處云々ト有之君歸村從來入會山
 ナラハ右休ノ詫書ヲ出ス可キ謂レナシ其証左ノ如シ

入置申一札之事

一此度倉之助儀共御村方之三ノ澤ニ付青物ヲ盜ミ居リ候處其御
 村方ノ衆ニ被見付誠ニ以テ申譯モ無御座候處御慈愛ヲ以テ御
 勘辨被下難有仕谷ニ奉存候然ル上ハ以後村中ノ者共ニモ急度

申付一人成共右様ノ事仕候ハ、如何ニモ可被成候爲後日一札
入置申候處仍テ如件

君歸村

倉之助印

庄屋

天保七年五月 源左衛門印

欠ノ上村

若連中様

又明治八年三月中從來有税ノ公有地ヲ民有地ト更正相成從前檢地
帳高内田畑屋敷ノ外書上ケト題セル地種取調帳ノ書上ヲ命セラレ
今般ノ論所ヲ原告欠ノ上村及六日町兩村ニテ書上ケントスルノ際
被告(野田)兩村及ヒ川窪村ヨリ其書上ケ帳ニ戸長ノ調印ヲ拒ミシ故

戸長ハ不得止左ノ第十四號証書ノ通り地稅改正課ノ指令ヲ受ケ原
告及六日町兩村ニテ取調タル書上ケ帳ニ調印シタリ
本文第十四號証及ヒ指令寫左ノ如シ

奉同上候

第十三區小五區

戸長

遠藤 坦 治

右ハ此度官民地區別取調ニ付當區公有地宇澤山六日町欠ノ上外
三ヶ村入會ノ儀ニ付一昨年ヨリ御上様へ御苦勞ニ預リ六日町欠
ノ上兩村惣代ノ者共昨四月中事濟ノ趣ニテ一先歸村罷在候處今
般前件書上ニ付野田村始外二ヶ村ヨリ未タ掛リ合中ノ趣申出六
日町欠ノ上書上帳簿戸長奥印猶豫致吳様申出候間如何取調爲致

候哉此段奉伺上候以上

明治八年六月十五日

右

遠藤坦治印

代理出港四番組用掛

代石川寛一代印

地租改正御掛

指令

書面入會山野田村外二ヶ村ヨリ掛り合中ノ趣ニテ六日町外一ヶ村書上帳簿奥印ノ儀故障申出候ニ付調方伺出候間村々割付帳調査候處六日町外一ヶ村ノ儀從來山手米相納居野田村外二ヶ村ノ儀ハ右山地収税無之ニ付兩村ノ方へ奥印致シ可差出尤モ右ニ付三ヶ村ニ於テ申分有之候ハ、訴出裁判可受事

明治八年六月十七日

以上都テ該論地ハ原告欠ノ上及六日町兩村入會ノ山地ナル証據ナリ又被告証トスル元祿度裁許狀中此節ノ証文中立ニ致候得共此儀一切論所ニ手傳候儀無之トアルハ即チ論所ニ關係セサルト云儀ナリ又同文中三ヶ村分云々トアルハ入會山下云意ニアラスシテ三ヶ村水源山ナルトノ意味ナルトハ則チ水尾山ノ儀云々トアルニテ判然タリ縱令假リニ此文ヲシテ被告ノ云フ如ク被告野田君歸ノ兩村カ入會ヲナスノ証左トナスモ寶曆十一年ニ至リ原告ノ如ク山手米貢納セサル上ハ該澤山ニ入會ノ權利ハ消滅セシモノナリ又被告ニ於テ舊柏崎縣廳へ書上ケ帳簿ノ肩書ニ澤山トアルハ庄ノ又川ノ東南ニ位シ云々申立ルト雖モ其相違アル廉ハ既ニ乙印繪圖面ニ記載シテ之レヲ呈供シタリ又被告ニ於テ夏秋兩度ノ定日山ノ口ヲ明ル

古例アル旨申立レモ右ハ一切無之事ナリ右ノ次第ニ付該論山ハ原告
告欠ノ上及六日町兩村ノ外被告兩村ニ於テ入會ナサ、ル様更ニ判
決アラシキヲ乞フ

被告 野田村君歸村惣代中俣要次郎外一人答辨ノ要領

原告ニ於テ明治六年四月中舊柏崎縣廳へ差出シタル入會山書上帳
ニ野田村中俣會一郎ノ調印アルヲ以テ論地ハ一圓原告進退ノ確証
ナリト陳述スレモ當時會一郎ノ調印セシハ既ニ新潟裁判所ニテ會
一郎親シク陳述セシ如曠漠ノ地境界ヲ分別シテ調印セシニアラス
全ク縣廳ヨリ至急書上ケノ令アルニヨリ匆卒ノ間何ノ心得モナク
調印セシモノナリ假令心得アルニモ一人ノ調印アルヲ以テ園村
ノ承諾ト認ルノ理アルヲ聞カス況ンヤ君歸村ノ如キハ關リ知ル處
ニアラス且ツ該帳簿末文ニ右山嶮岨場廣ニ付追テ精細取調書上云

々ト記載セリ然レハ十分ナル書上トハナシカダカルヘシ已ニ十分
ナルモノニアラストセハ之ヲ確証トスルハ甚タ謂レナキコナリ又
元祿度ノ繪圖面ハ油田山爭論ニ付製造セシモノナレハ今般論地ノ
証ニハ立カダキ旨原告陳述スレモ該繪圖面裏書ニ君歸欠ノ上野田
三ヶ村分峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤山云々ノ明文アリ假令原告
申立ノ如ク其原由他ニ出ルニモセヨ已ニ此明文アル以上ハ獨リ油
田山ノ區域ノミニ止マラス廣ク峠山ノ境ニ至ル迄ヲ明カニセシモ
ノナレハ満足ナル証據トナサ、ルヘカラス又原告(欠ノ上村)ニ於テ無稅
水源山ナル確証ハ決テ之レナク云々陳述スト雖モ現ニ原被各村ノ
用水ハ該論地ヨリ湧出スルモノニ非スヤ然ラハ則チ之レヲ水源山
ト稱スルモ何ソ無理ナラン已ニ水源山ニシテ其有稅ナル確証ナク
之レニ適當スルノ貢米ナク而シテ其地ハ則チ各村ノ入會地ヲ証ス

ル以上ハ則チ其地ヲ認メテ無税ノ水源山ナリトスルハ當然ト謂フ
 ヘシ原告^(欠ノ)上村^(上村)ハイカナル証據アリテ有税不入會ノ地ト稱スルヤ畢
 竟原告^(欠ノ)上村^(上村)ニ於テ種々多岐ニ申立ルト雖モ其歸着スル處ノモノハ
 山手米貢納ト柏崎縣廳ヘ差出シタル入會山書上帳ニ過キス右山手
 米ハ元ヨリ字付モナキモノナレハ何レノ山ノ貢米ナルカ確知シカ
 スキモノニシテ此貢米ハ某山ニ適當スヘキモノナリト猥リニ私定
 スルモ自由ナルモノナリ然レモ其証ヲ檢スルトキハ捕風捉影遂ニ
 曖昧ニ歸シテ止ン况ンヤ升數書出シ方ノ事實ニ違シモノニチイテ
 オヤ右書上帳ハ前段ニモ陳述スルカ如ク一時ノ假定一己ノ疎漏ヨ
 リナリメチタルモノニシチ之レヲ証據トナシカクキハ識者ヲ待タ
 スシテ知ルヘキナリ且右書上帳山手米升數書ノ肩書ニ宇澤山トア
 リ澤山ハ即チ庄ノ又川ノ東南方ニ位シ欠ノ上六日町兩村ノ入會地

ニシテ新潟裁判所ノ裁判言渡書ニ被告^(欠ノ)上村^(上村)兩村限リ入會山手米
 貢納ノ場所ハ今般論外凡ソ百七拾町步餘ト双方ヨリ申立ル山地ト
 可相心得事トアルノ地ニテ論地ハ即チ庄ノ又川ヲ隔テ、西北ニ位
 シ元祿度ノ裁許書ニモ明記セル字峠一三四ノ澤山ニシテ又水尾
 山トモ云ル地ナリ則チ該帳簿ニ記載ノ澤山トハ全ク別所ナルト明
 カナリ原告^(欠ノ)上村^(上村)ハ巧ミニ澤山ノ境界ヲ論スト雖モ前條ニ演ルカ如
 ク全ク別地ニシテ界スルニ庄ノ又川ヲ以テシ古昔ハ川西北ヲ數上
 ノ庄ト云ヒ川東南ヲ上田ノ庄ト唱ヘ今ハ則チ小區ノ界トナシ川ヨ
 リ西北ハ七小區ニテ川ヨリ東南ヲ五小區トナス其區域ノ判然タル
 又多辨ヲ要セサルナリ元祿度圖面裏書ニ更ニ左ノ下紙文ト添書文
 アリ左ノ如シ

下紙ノ寫

君歸村

庄屋

傳右衛門印

組頭

源左衛門印

百姓代

半左衛門印

欠ノ上村

庄屋

源七印

組頭

善右衛門印

百姓代

七兵衛印

繪圖面寫取奉差上候處相違無御座候以上

天保十二年丑五月

添書ノ寫

此繪圖本書追而

公邊ヨリ御下ケ辰ニ相成候迄ハ此寫ヲ以テ證據ニ可相用者也

天保十二年丑六月

小千谷

陣屋印

然レトモ被告

(野田村) 君歸村

ハ必スシモ自ラ該論山ヲ獨占セントスルニア
ラス從來ノ如ク原被各村入會秣田肥ヲ蒞取ヘキヲ企望スルニ過

キヌ又原告(上村)差出シタル第十號証書ナルモノ其始ヨリ終リニ至ル迄被告(野田村)ノ關係スヘキ明文ナシ且其宛所ヲ明記セサレハ何レノ官廳ニ差出シタルヤ分明ナラス之レヲ評シテ一己ノ私書ト云モ不當ニアラサルヘシ加之其年曆元祿度ノ以前ニ在リトスレハ被告ノ証確トスル元祿十年ノ裁許書ニ比照シ其是非自ラ明カナリ抑元祿度裁許ノ際ニ於ケル實地ニ就キテ確實ヲ主トシ凡ソ証據トナスヘキモノハ細大網羅幾多ノ時日ヲ費スノ後ニ於テ決落セシモノナレハ本書ノ如キ恐クハ後世ノ偽造タルカ或ハ不然モ當時已ニ反古ニ属セシモノナルヘシ又原告(上村)差出シタル第十一號証書第一條第二條ハ則チ元祿十年以前ニ係ルモノニテ全ク前第十號ト同種類ノモノナルヲ以テ更ニ答辨ヲ要セス其第三條ノ如キハ天明ノ年曆ヲ記載シアルモ取ルニ足ラサル一片ノ私書ニシテ証據トナスヘ

キモノニハ非ルヘシ且ツ該書ニ三ノ澤ト記シアルモタ、二三ノ澤ト單書スルノミナレハマサシク此三ノ澤ハ欠ノ上村所有地中ノ字ニシテ方今論所タルノ峠山三ノ澤ニハアラサルヘシ又原告(上村)差出シタル第十四號証書ニ地種取調伺書ノ件ヲ擧ケ論辨アリト雖モ右取調帳簿ノ如キハ原告(上村)一手ニ成レルモノニシテ其戸長モ元原告六日町村ノ人ナレハ素ヨリ公平無私ノ書上ケトハナシカカカルヘシ而シテ該爭論中ハ奥印猶豫致吳度趣ヲ斷リ即チ被告(野田村)ハ之レニ向テ敢テ承服セシニ非サルナリ彼ノ峠山ト澤山トノ別地ナルコトハ被告(野田村)ノ尤モ主トシテ論スル所ニシテ其証據ノ如キ已ニ屢々上申スルカ如シ故ニ原告(上村)ニ於テ彼ノ帳簿ヲ差出スモ全ク澤山ノミニ係リテ他ニ異心ナキモノナラハ被告(野田村)何ソ猥リニ之レニ向テ故障ヲ述ンヤ然ルニ原告(上村)ニ於テハ山手米ヲ主

張シ澤山ヲ以テ峠山ト一般ニ地續ナリト論スルヲ以テ被告(野田村君歸村)ハ峠山書上ケ方ニ差支ヘ之レヲ肯シセサルナリ然ルニ原告(上村)ニミニ山手米ヲ主張シ新潟縣廳地租改正掛リヘ伺出テ其指令ヲ乞ヒ受ケタリ被告(野田村)其指令アリシヲ聞知シ甚タ安セサルヲ以テ地租改正掛リヘ其事由ヲ尋問セシニ掛リ吏員ノ示諭ニ彼ノ指令ノ如キハ戶長代理石川寛治ノ申立ニ由テ指令ナセシモノナレハ若其事實ニ適合セス其意ニ満足セサルナラハ即チ指令ノ末文ニ明記セシ如ク速ニ裁判所ヘ出訴シ裁判ヲ仰クヘシト云ヘリ故ニ被告(野田村)ニ於テ斷然決志新潟縣裁判所ヘ出訴シ遂ニ事今日ニ及ヒタリ其峠山ヲ官林ト一時申立タルハ縣廳ヨリ官公有地ノミ取調可差出旨達ニ有之然ル處官有地公有地等ノ區別ヲ不相辨ユリ官林ト申立タル儀ナリ尤右場所ハ公有地ト思料セリ且ツ明治九年中新潟縣地租改

正課ヨリ廻達アリシ第十三大區小七區拜借地中ニ該峠山ヲ明記セラレシト左ノ如ク
 第九十四番
 字峠山
 一山反別三百町步
 野田村

但壹反ニ付此價五錢

是ハ野田村欠ノ上村君歸村入會分

原告(上村)ニ於テ該論山地元ハ欠ノ上村ニ屬シ則チ麓ニアル田地ハ欠ノ上村進退地ナリト申立レモ右地元ノ儀ハ野田君歸欠ノ上三ヶ村ト古來申傳有之尤モ田地進退ハ原告欠ノ上村申立ノ通り也

判文

第一條

被告(野田村)ニ於テ原告(上村)及六日町兩村入會山手米上納ノ場所ハ

被告(野田村)ノ所謂澤山ト稱スル所謂庄ノ又川ノ東南ニ位スル今般ノ論外地百七拾町步余ノ山地ナル旨申立ルト雖モ右山手米ハ果シテ右場所ニ相當スルモノナルヤ又澤山ト云ハ果シテ右山地ニ限リタル稱呼ナルヤ絶テ証據ノ見ルヘキナケレハ信用シカダシ

第二條

被告(野田村)ニ於テ元祿十年九月原告(欠ノ)村ト君歸村ト油田山爭論ノ裁許繪圖裏書ニ先年六日町村ノ者モ山出入有之此節ノ証文申立ニ致候得共一切論所ニ手傳候儀無之候右ハ水尾山ノ儀ニ候君歸欠ノ上野田三ヶ村分峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤ト有之然レハ右三ヶ村分峠山ト相見候故一向君歸ノ地ニ不限候處君歸村地續候様ニ申段是又証據ニ難成ト記載アルヲ以テ該論山ハ原被三ヶ村(欠ノ)上野田君(野田村)入會地ノ確証ナル旨申立ルト雖モ該裁許ハ油田山ノ爭論ヲ判定

セシモノニシテ峠山或ハ水尾山ト云フ裁決セシモノニ非ス且右文意ハ油田山ニ關係ナキヲ以テ之レヲ却ツケタル旨趣ニシテ該証文ノ性質ヲ論定シ又ハ該証文ニ因テ峠山或ハ水尾山ト云フハ三箇村入會ナリト確定シタルモノニモアラス而シテ其三ヶ村分トアルハ水源ニ付テ云ヒシ歟或ハ地元ニ付テ云ヒシ歟將入會小芝草苅ニ付テ云ヒシ歟又其証文ハ如何ナル原由ヲツテ成立タルモノナルヤ今現ニ該証文ヲ見ルヘカラサレハ隨テ其眞面目ヲ了知スルニ由テシ而シテ該論山ハ六日町村ニ於テモ從前入會タルコトハ被告(野田村)モ既ニ認知スル所ナルニ右三ヶ村分トアルヲ入會小芝草苅ノ証トスルハ六日町村ノ入會ニ適合セズ實際既ニ此ノ如キ齟齬アレハ右三ヶ村分トアルノミヲ以テ草苅入會ノ明証ト爲スヲ得ス

但シ被告(野田村)ニ於テ天保十二年五月中山地改ニ付右元祿度裁

許繪圖裏書共寫取原告(上村)及ヒ君歸兩村連名ヲ以テ小千谷陣屋
 へ差出シタル節此繪圖本書追テ公邊ヨリ下戻相成迄ハ此寫ヲ以
 テ證據ニ可相用旨書付有之則チ峠山ハ原被三ヶ村(上野)入會
 ナルコト天保十二年ニ於テモ原告(上村)ノ確認セシ證據ナル旨
 申立ルト雖モ該裁許ハ元來油田山ノ爭論ヲ判定セシモノナレハ
 右證據ニ可相用トハ油田山裁判ノ證據ニ可用トノ趣旨ナルコト不
 待論且右裁許圖書上ニ野田村ノ連名ナキヲ以テモ三ヶ村入會シ
 確認セシ證據ト爲スヲ得サルモノトス

第三條

前條々論定スルカ如ク被告(野田村)ハ該論山小芝草刈入會ノ確証ナ
 シシテ原告(上村)ニ於テハ古來該論山ニ立入タル確証アリ則チ元祿
 度裁許圖ニ該論山ノ部内ニ原告(上村)進退ノ田地ヲ騰寫シ方今ニ至

テモ該論山ニ開拓シアル田地ハ原告(上村)ノ進退ナルコトハ被告(野田
 村)モ既ニ明言スル所ナレハ原告(上村)ノ古來該論山ニ立入タル
 コト明瞭ナリ然リ而シテ峠山ト澤山ト區別アリト云ハ毫モ證據ノ見
 ルヘキナシシテ原告(上村)ハ六日町村ト共ニ上納スル山手米ハ則チ
 峠山或ハ澤山ト云フニ適當スルト云フヲ被告(野田村)ニ於テ之レチ
 打消スヘキノ證據ナケレハ右山手米ハ峠山或ハ澤山ト云フニ適當
 セサルモノト謂フヲ得ス

第四條

是ニ於テ原告(上村)第十四號該地租改正掛リ指令ヲ見ルニ曰ク六日
 町外一ヶ村書上帳簿奥印ノ儀故障申出候ニ付調方伺出候間村々割
 付帳調査候處六日町外一ヶ村ノ儀從來山手米相納居野田村外二ヶ
 村ノ儀ハ右山地収稅無之ニ付兩村ノ方へ奥印致可差出ト記載有之

當時縣官ニ於テモ既ニ該山手米ハ原告(上村)ノ所謂峠山ニ収納スルモノト認メタルヲ知ルヘシ論シテ此ニ至レハ中俣會一郎ノ調印セシ舊柏崎縣廳ニ差出シタル入會山書上帳及ヒ原告第十號第十一號証書ノ如キモ亦以テ相徴スルニ足レリトス

第五條

右ノ次第ニ付被告(野田村)ハ該論山ニ於テ小芝草効入會ノ確証ナキ

モノニ付原告(上村)ニ對シ入會ヲ主張スル權利ナキモノト可相心得

事明治十年四月十三日

大審院ニ於テ

原告 野田村君歸村惣代中俣要次郎上告ノ要領

第一條

元祿度裁許繪圖裏書文中ニ此節ノ証文云々トアル証文ナルモノハ

即チ別紙乙第一號寛文十一年ノ一札ニテ木紙ハ戸長今成無事平方ニアリシカ同人退役ノ後遠藤垣治ナルモノ戸長トナリ該証文ヲ押隠シ差出サ、ルニ付則其寫ヲ以テ東京上等裁判所ニ提供セシモ寫ニテハ証左ニ不相立旨ニテ檢閲セラレサリシ然レモ該寫ハ會テ戸長ノ面前ニ於テ本書ト校合セシモノニテ本紙モ同様ナリ而シテ其証文ニハ君歸欠ノ上野田三ヶ村分峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤山ノ儀ハ野田田中欠ノ上川窪四ヶ村ノ水ノ尾トシテ先年ヨリ御立置被成候處トアリ元祿度繪圖裏書ニモ野田君歸欠ノ上三ヶ村分峠ト明記セリ尤論外六日町村ニ於テ該山ニ入會フコトハ記載ナキモ前顯寛文度壹札ノ明文ニミレハ六日町村ハ野田君歸欠ノ上三ヶ村ノ如ク全部ノ入會ニ非サレモ十三種ノ木品ヲ除キ薪取入ノ爲メ下木伐採ノミニ入會スヘキ定メナルヲ東京上等裁判所ニ於テハ今現ニ該

証文ヲ見ルヘカラサレハ隨テ其眞面目ヲ了知スルニ由ナシ或ハ六日町ノ入會ニ適合セス云々判決セシハ不法ナル裁判ト思考ス

第二條

東京上等裁判所判文第三條ニ峠山ト澤山ト區別アルト云ハ毫モ証據ノ見ルヘキナシ云々トアレモ所謂澤山ナルモノハ今般ノ論外百七拾町歩ノ地ニシテ論所峠山トハ固ヨリ別地ナリ故ニ峠山ト澤山トノ境界ニ庄ノ又川ナル川アリテ古ヨリ川西北ヲ藪上ノ庄ト云ヒ川東南ヲ上田ノ庄ト稱シ現今五小區ト七小區ノ境界トナリ地形決テ一ノ澤山トナスヘキニアラス然ラハ則被告欠ノ上村ト六日町村トノ入會地ハ所謂庄ノ又川東南ニ位スル澤山(一名日影山)ニテ西北タル峠山(一名水尾山)一ノ澤ヨリ四ノ澤山迄ハ元祿度繪圖裏書明文ノ如ク原告野田君歸ノ兩村ト被告欠ノ上村トノ入會地ニシテ澤山ト峠山ト

ノ區別判然タリ且若シ該峠山ハ原被ノ入會ニアラサルモノトセハ元祿度繪圖裏書ニ君歸欠ノ上野田三ヶ村分峠一ノ澤二ノ澤三ノ澤四ノ澤山ト明記アル裁許文ヲ欠ノ上村ニテ今日迄肯受シ居ルノ理ナキナ此等ノ審理ヲ尽サス斯ク判決セラレシハ不法ノ裁判ナリト思考ス

又同條ニ原告(上欠村)ハ六日町村ト共ニ上納スル山手米ハ則チ峠山或

ハ澤山ト云フニ適當スルト云フヲ被告(野田君歸)ニ於テ之ヲ打消スヘキ証據ナケレハ云々トアレモ該山手米ハ原告欠ノ上村カ自ラ証左トスル皆濟目錄等ニ字所モ記載アラス其他必ス論所峠山ニ對スル山手米ナリト云確証アラスシテ被告ノ陳述コソ則チ無証ナルヘキチ東京上等裁判所ハ其山手米ハ該峠山ニ適當セルモノト認メ却テ原告野田君歸兩村ニ責ムルニ無証云々ヲ以テスルハ不法ナル裁判ナ

リト思考ス

第三條

同判文第四條ニ地租改正掛リ指令ヲ見ルニ云々當時縣官ニ於テモ
 既ニ該山手米ハ原告(欠ノ)上村ノ所謂峠山ニ収納スルモノト認メタル
 知ルヘシトアレ凡右伺書指令ノ如キハ被告欠ノ上村一己ノ所存ヲ
 以テ差出タルモノニテ固ヨリ原告兩村ノ關係ナシト雖モ當時右指
 令アリシヲ傳聞シ之ヲ縣廳ニ伺シニ掛リ官員ノ示諭ニ彼ノ指令ノ
 如キハ戶長代理石川寛治ノ申立ニ依テ指令ナシタレ凡事實ニ適セ
 サレハ即チ指令末文ニ明記スル如ク裁判ヲ請ヘキトノトナリ然ラ
 ハ則チ縣官ニ於テモ該山手米ヲ以峠山ニ適當シタルト確認セシニ
 非サルハ其指令末文ニ明ナルヲ東京上等裁判所ハ却テ縣官ノ確認
 セシモノトナシタルハ不法ナル裁判ト思考ス

第四條

又同判文同條ニ中俣會一郎ノ調印セシ舊柏崎縣廳ニ差出シタル入
 會山書上帳及ヒ原告第十號第十一號証書ノ如キモ亦以テ徵スルニ
 足レリトストアレ然中俣會一郎ナルモノハ嚮ニ東京上等裁判所ニ
 於テ縷々論辨セシ如ク特ニ地券世話掛リノ役ヲ以テ柏崎縣廳ニ出
 張シ全ク一己ノ過失ニテ調印セシモノナレバ其過失ハ一己ニ止マ
 ル之ヲ園村ニ及ホスノ理アラズ且ツ中俣會一郎ハ野田村ノモノナ
 レバ君歸村ハ毫モ關係セサルナリ而シテ所謂第十號第十一號証書
 ナルモノハ固ヨリ私書ニシテ取ルニ足ルベカラサルヲ此等ノ審理
 尽サス共ニ徵証ナシシ裁判セラレシハ不法ナル判決ナリト思考ス

第五條

被告欠ノ上村初審裁判所ニ於テノ陳述ニ論所ハ三百町步論外百

七拾町步山手米ハ欠之止ニ於テハ四升五合六日町村ハ貳石五斗ト云ヒ終審裁判所ニ於テハ論所百九拾町步論外四拾町步山手米ハ欠以土村ニ於テ貳石六日町村ハ貳石五斗ト云ヘ而シテ原告兩村ハ初終兩審共論所即チ峠山ハ三百町步ト陳述シ現在モ亦三百町步ニ下ラスシテ別紙第十七號新潟縣ヨリ廻達拜借地區別ニモ三百町步ト明記アルヲ東京上等裁判所ハ是等ノ實際ヲ推究セズ單ニ被告次ノ上村ノ申立ニ反別ニ依リ裁判アリシハ審理ヲ盡サハ不條理ヲ裁判ナリト思考スルニ當リ然レドモ被告兩村ハ被告兩村ニ用ニ但シ木文献歩ノ儀上等裁判所ニ於テ審問アラサレニ付次ニ上村會以陳述ヲ知ラセリカ判文ヲ受テ通讀スルニ方次ニ上村カ畝又步陳述ニ本文及如ク相違アリシヲ知シ勿レ誤認スルニ當リ

第六條

元祿度ノ繪圖ニハ原告(野田)兩村ヨリ論所即チ峠山へ通行スル道路判然記載アリ若シ東京上等裁判所判文ノ如ク原告ハ入會セサルモ是トモ該繪圖ニ於テ道路ノ明記アルニキ理ナシ是不法ノ裁判トリト思考スルニ當リ然レドモ被告兩村ハ被告兩村ニ用ニ但元祿度繪圖道路ノ可ハ上等裁判所審問中陳述セズ以テ既ニ該圖ヲ提供シ置タルハ此道路ハ下知セシカルニ付被告兩村ハ被告兩村ニ用ニ

第一條

原告ハ元祿度裁許繪圖裏書文中ニ此節ノ証文トアルハ別紙乙第一號寬永十一年ノ一帖ニテ該寫ハ會テ戶長ノ面前ニ於テ本書並校合モシモノニテ本紙モ同様ナリ而シテ其証文ニ云々ト申立レテ該証文ノ事ハ東京上等裁判所ニテ既ニ証文ヲ見ルヘカラサレハ隨テ其

眞面目ヲ了知スルニ由ナシト判定有之原告於テモ該寫ハ本紙同様
ガモノト云下テ東京上等裁判所ニ供述シテ之ヲ判決ヲ請サル上ハ
今更該証文寫中ノ文義ヲ援引シテ東京上等裁判所ノ裁判ヲ議難ス
ル筋ナキモノトス

第二條

原告ハ判文第三條ニ峠山ト澤山ト區別アリト云ハ證據ノ見ルヘキ
ナシト云ニ對シ庄ノ又川ヲ二山ノ境界ト定メ川西北ヲ藪上ノ庄ト
云ヒ川東南ヲ上田ノ庄ト稱シ被告兩村ノ入會地ハ庄ノ又川ノ東南
ニ位スル澤山ニテ云々ト申立レ凡果テ峠山ト澤山トハ別地タルノ
証左ヲ東京上等裁判所ニ於テ申立サルノミガラス明治九年十二月
十八日ノ口供書ニ別段確証ハ無之ト云ル上ハ證據ノ見ルヘキナシ
トノ判決ハ當然ノ事トス又被告兩村ヨリ上納シ來リタル山手米ハ

果テ原告ノ所謂庄ノ又川ノ東南ニ位スル澤山ノ山手米ニ相當スル
證據ヲ舉ガレハ到底原告ノ云フ所ハ一個ノ臆說タルヲ免レヌ

第三條

原告於テ地租改正掛シ指令ハ戶長代理石川寛治ノ申立ニ依テ指令
ナシタル凡事實ニ適セサレハ云々當時縣官ノ示諭有之縣官モ該山
手米ヲ以テ論所ニ適當シタルト確定セシニ非ス云々申立レ凡前條
ニ辨明スル如ク其証憑ナキヲ以テ東京上等裁判所ニ於テ該指令ニ
六日町外一ヶ村ノ義從來山手米相納居トアル明文ニ據リテ當時縣
官ニ於テモ既ニ該山手米ハ被告ノ所謂峠山ニ収納スルモノト認メ
シモノト判定セシ以テ不法ノ裁判ニアラズトス

第四條

原告ハ中俣曾一郎ノ調印ハ一己ノ過失ニ止マリ被告第十號第十

號シ証書ナルモソハ私書ニシテ取三足ラサルハ曩ニ東京上等裁判所ニ於テ縷々論辨セシニ此等ノ審理ヲ尽サス云々ト申立レ本條ノ如キハ裁判官ノ博証援引シテ原告ノ該山々入會サル一ヲ參証スルニ足ルト認定シ然ルモノニシテ該裁判以主要ナル處ニ非ルヲ以テ之カ辨明ヲ與テ之ヲ申立ルニ於テ第五條其ノ旨ニ依リテ原告ハ被告欠ノ上村カ新潟裁判所東京上等裁判所ニ於テ論所以町步山手米ノ石數ヲ陳述スルニ前後各異テ原告兩村ハ然ラサル旨申立レ右等ノ如キ亦該裁判以主旨ニ依ラザルノ旨トシテ原告於テ東京上等裁判所ニ申述シテ之カ裁決ヲ受サル上ハ本院ニ於テ辨明ヲ求メ限ニ非ス理ニ依リテ之ヲ論ハ一關ノ證據ニ依リテ原告ハ第六條其ノ旨ニ依リテ之ヲ論ハ一關ノ證據ニ依リテ原告ハ

原告ハ元祿度ノ繪圖ニ原告兩村ヨリ論所即チ峠山々通行スル道路アリ若シ原告ハ入會セサルモノトセハ道路ノ明記アリ理ナシト申立レ東京上等裁判所ニ於テ其供述ヲナシテ之カ判決ヲ受サレハ本院ニ於テ辨明ヲナス限ニアラス

判決

前條々ノ次第ナルヲ以テ東京上等裁判所ニ裁判以破毀スヘキ理由ナキモノトス

第八拾六號

○家督相續妨碍一件上告ノ判文明治十年一月二十六日上告

原告 廣島縣下第八大區七小 區安藝國賀茂郡廣村長 濱三千八百四拾貳番地

平民

村尾

右代人

廣島縣下第八大區拾四

小區安藝國賀茂郡乃美

尾村千百五拾番地平民

西川太郎兵衛

被告

廣嶋縣下第八大區七小

區安藝國賀茂郡廣村長

濱三千八百五拾五番地

平民

村尾傳次郎

大阪上等裁判所ノ審判

原告

村尾サヨ「代言人樋田保濙控訴ノ要領

明治九年三月九日

明治六年九月村尾傳助死去ニ付明治六年十一月三十一日右傳助家

名相續人決定スル迄妻「サヨ」戸主トナリテ相續スヘキ旨親類協議ノ

上左ノ通り届書差出シ聞濟ニナリタル段明治七年一月ニ至リ承知

シタリ

第八大區廣村三千八

百四十二番屋敷商

村尾傳助

當十一月迄
四十六歳

右ハ一昨廿九日病死仕跡相續ノ儀ハ近々親類談合ノ上相定御届
申上夫迄ノ處同人妻「サヨ」相續仕候此段御届申上候以上

第八大區七小區廣村

三千五百五十九番屋

敷商

親類

明治六年十一月三十一日

村尾傳吉印

小組月番

村尾常三郎印

大組代

長直次郎印

戸長

住吉猶三郎殿

多賀谷精三郎殿

串山恒三郎殿

多賀隼之助殿

其後明治六年十二月六日兼テ分籍ナシタル村尾傳次郎ヲ引戻シ相續セシムヘキ旨ノ届書ニ「サユ」始メ該村月番並惣代連署シ縣廳宛ニテ戸長役場迄差出スト雖モ右ハ親類村尾傳吉村尾要助等ノ壓制ニヨリ不得止承諾シタル儀ニテ其後右届書ノ式不都合ナルニヨリ差戻サレ総代長直次郎事重徳ノ手ニ止メ置キタル由ナレハ縣廳ニ於テ聞届ケ相成タルモノニ之レナク隨テ傳次郎ハ相續人ニモ之レナキ所自儘ニ戸主ト稱シ戸主サユ並嫡男由井松ノ權利ヲ妨碍スルニ付明治八年四月廣島縣へ出訴ニ及ヒシ處結局次男由井松へ相續致サス可キ條理之レナキニ付傳次郎ヲ以テ家名相續可爲致旨裁判相成ト雖モ元來傳次郎ハ私生ノ子ナルニ傳助先妻子ナキヲ以テ嘉永七年十一月傳次郎ヲ引取爾來村方人別帳へ長男ト記載アレトモ

其名義ヲ與ヘタル迄ニテ其後由井松出生スル上ハ之レヲ以テ嫡長トナシ相續ス可キハ當然ナリ加之傳次郎儀ハ明治三年傳助ヨリ資本金及ヒ家屋ヲ與ヘテ分籍セシメタルハ左ノ戸籍面ニテ証スルヲ足ルヘシ

三千八百四十二番地

屋敷居住農

父當村農村尾傳

助亡四男

文政十一年十二月廿四日出生
明治六年十一月廿九日死

村尾傳助

壬申年四月十六日
四十五二月

安藝郡仁保島農二羽信右衛門長女
天保十一年庚子十二月十五日出生

妻

同三十三
三十二二月

二男

明治二己巳十月十日出生

村尾山井松

同二歲七月四

長男傳次郎長男孫

慶慶三丁卯八月十二日出生

村尾國助

同四歲六月六

氏神入江新宮社
寺安藝郡熊野村真宗西光寺

右之通壬申改正ノ戸籍寫面ニ相違無之候依テ與印仕候

同村總代人

明治九年四月四日

長錄三郎印

三千八百五十五番屋

敷居住商諸品賣事

父當村農村尾傳
助長男

弘化三丙午四月二日出生

村尾傳次郎

當村農森岡多三郎長女
嘉永三庚戌九月十三日出生

妻
壬申二十三月
二十六十月
カ

長男

明治四年辛未正月一日出生

村尾森吉

長女

明治六癸酉二月廿八日

同歲一月二

四月

氏神入江新宮社
寺安藝郡熊野村眞宗西光寺

右之通壬申年戸籍改正ノ寫面ニ相違無之候

同村惣代

明治九年四月四日

長 錄 三 郎印

然レハ本家相續ノ權ハ獨リ由井松ニアルコト判然ナルニ右戸籍面傳
次郎ヲ分籍ニ編製シタルヲ長ノ錯誤トナシ分籍ヲ別居ト改正セ
シハ最モ不條理ト思考ス且ツ又被告傳次郎所持スル第一號五月五
日附傳助自筆ノ証書ハ傳次郎ヲ相續セシムルノ遺囑ニアラスシテ
其頃傳次郎不身持ノ廉アルニヨリ財産配分ノ區域ヲ定メタル迄ニ
テ傳次郎已ニ分籍セシ上ハ右第一號ノ証書ノ効シハ消滅シタルモ
ノナリ傳次郎ニ於テハ戸主サヨ并嫡男由井松ニ對シ相續上ノ權限
ヲ妨碍スルノ理之レナシ依テ本縣ノ裁決ハ承服シ難シ

被告 村尾傳次郎答辨ノ要領 明治九年五月五日

自分儀ハ廣村平民亡鈴木長兵衛女セキノ腹ニ出生セシ亡傳助私生ノ子ナレトモ戸籍上長兵衛ノ長男鈴木長三郎ノ子トナシ養育ヲ受テ成長シタル處傳助子ナキヲ以テ嘉永七年十一月實父傳助ニ引取ラレ爾來村方人別帳ニ傳助長男ト記載スルヲ以テ相續爲ス可キノ權アリ且元治元年傳助ヨリ村役并一家親類へ宛タル左ノ遺託書アリ

書置之事

一當度私儀悴傳次郎ヲ尋參リ候間万一船中ニテ死去仕候時ハ悴傳次郎ヲ呼戻シ本家於カツテ貰受見合テ夫婦ニシテ此元相續致サセ被下奉頼自然双方ニ於テ我儘申募リ候時ハ一切有物三ツ割ニシテ二ツ割ヲ傳次郎相讓被下一ツ割ヲ於カツテ相分ケ被下此段厚ク奉願候

尙又巾上候左候得ハ後家テハ儀宜敷奉願上候万事此人へ相談シテ相續方宜ク奉願上候

明治九年十二月

中野屋

子五月七日

傳次郎 助印

并一家親類殿

其後傳助尙存命ニテ繼母サヨ一入嫁由井松出生スト雖モ戸籍上長男傳次郎二男山井松ト記載有之ニテ明瞭ナリ且ツ又明治三年自分別居ノ際金百圓ヲ授受セシハ商業試メ爲メニシテ分家異産ノ譯ニハ之レナシ又傳助死去ニ付明治六年十二月繼母サヨ并ニ自分及ヒ親類村惣代等連署ノ上財産分與ノ一札外ニ別地所切渡シノ一札ヲ弟由井松へ渡シタリ其証書左ノ如シ

記

第一大新開反別壹反

口ノ八長濱勘右衛門ヨリ入

此預ケ米壹石貳斗 小作横土榮助

以下十八筆之ヲ零ス

一金貳百圓 商法金

右金子ノ義ハ由井松生長ノ上商賣代相渡可申テ尤來ル戌正月

リ年々月壹步定メ利足相渡可申事

村尾傳助妻

明治六年十二月

村尾傳次郎印

親類立會

村尾傳吉印

村尾要助印

大賀政次郎印

弟

村尾由井松殿

前書ノ通家屋敷田畑山林商法金熟談上由井松殿所持ニ相定リ候
處無相違然ル上者以後双方申分有之間敷候爲其立合見届加判致
候也

立合

明治六年十二月

長直次郎印

鳥井治郎平印

記

一多賀谷新開反別壹反

小坪辰平ヨリ入ル

此預ケ米八斗

小作小坪辰平

當度其許へ別地相定リ候ニ付親類一統立合之印形之外右之ケ所
生長ノ後切渡可申爲其加判如件

明治六年十二月

村尾傳次郎印

村尾由井松殿

前書之通相違無之立合加判致候也

長直次郎印

鳥井次郎兵衛印

又明治六年十二月親類協議ノ上自分ヲ相續ト相定メ「サ」始メ月番

并總代ノモノ連署シテ左ノ届書ヲ戸長役場迄差出シタリ

記

第八大區七小區三千

八百四十三番屋敷

村尾

傳次郎助

右者病死仕跡相續ノ儀次男由井松幼年ニテ家業難營依而三千八
百五十五番屋敷別居罷在候長男村尾傳次郎引戻家名相續爲仕申
候此段御届申上候以上

第八大區七小區廣村

三千八百四十三番屋

敷商村尾傳助妻

明治六年十二月六日

小組月番

工藤久平印

大組総代

長直次郎印

廣島縣權令伊達宗興殿

右ニ付一旦「サヨ」カ假リノ相續人タル儀ハ消滅シ自分戸主ト決定セ
 シ所右届書ノ式不整ナルヲ以テ差戻サレ總代手元ニ預リ置其頃總
 代租税取立方繁劇ニテ再届ケ遷延相成ル内「サヨ」ヨリ出訴ニ及フト
 雖モ已ニ自分ノ相續ヲ承諾セシ「ハ」右届書ニテ明瞭ニシテ決シテ
 村尾傳吉村尾要助等ノ壓制ニハ之レナク又明治五年ノ戸籍上別籍
 ニナリタルハ至ク戸長住吉猶三郎ノ錯誤ニテ即チ猶三郎ヨリ縣廳

へ申立其許可ヲ得テ戸籍改正シタル義ニテ固ヨリ別籍ニアラサル
 事明瞭ナリ右ノ次第ニ付原告「サヨ」於テ相續上ノ權利ヲ妨碍スル
 ト以テ訴訟ハ心得カズシテ「ハ」等ノ相續上ノ權利ヲ侵害スル
 事無キ判文

第一條

被告勝助又勝太郎事村尾傳次郎ハ亡鈴木長兵衛娘セキニ出生スル
 亡村尾傳助私生ノ子ニテ長兵衛長男五作ハ長三郎ノ子トシ養育シ
 タルハ原被口供符合シ且ツ弘化二年ヨリ嘉永七年ニ至ルハ別帳ニ
 五作長男勝助ト記載アルニテ明瞭ナリ

第二條

嘉永七年傳次郎七歳ノ節傳助先妻「ハ」子ナキヲ以テ引取養育シ
 タルハ原被申口符合シ且ツ嘉永七年ヨリ明治四年ニ至ルハ別帳ニ

傳助子傳次郎トアリ又戸籍ニ傳助長男傳次郎トアルハ一旦長三郎長男タリシヲ改メテ傳助ト送籍シ傳助長男ト定メタルハ判然ナリ

第三條

被告傳次郎ヲ傳助長男ト定メタルハ戸籍面ニ判然ナルノミナラス第一號五月七日附傳助ヨリ村役人并ニ一家親類ヘ宛テタル書面ニ倅傳次郎ヲ呼戻シ本家カツヲ貰受兩人ヲ見合テ夫婦ニシ此元相續致サセ被下奉願トアレハ是レ亦傳次郎ヲ繼續ト定ル憑據ナリ

第四條

明治元辰年九月原告サヨ傳助後妻トナリ明治三年由井松出生スルヲ以テ被告傳次郎ハ私生ノ子ナル故相續ノ權無之旨申立ル處由井松出生ノ前傳助於テ傳次郎ヲ以テ繼續タルノ分ヲ定メ置タルハ私生ヲ以テ論ス可キニ非ス

第五條

原告ニテ明治三年十月被告傳次郎ヘ資本金并ニ家屋雜作ヲ分與シ分籍ナシタル處戸長ノ錯誤トシ別居ト改正スルハ不條理ナル旨申立ル處傳次郎ノ異居セシハ明治三年十月ニテ明治四年ハ傳助戸籍ニ記載シアレハ分籍ニ無之明治五年戸籍改正ニ當リ分籍トアルハ果シテ戸長ノ錯誤ナラサルトノ証明モ無之又明治六年十二月六日傳次郎相續届原告サヨ運署ノ書面ニモ別居傳次郎ト記載有レハ分籍ナリトノ申分不相立

第六條

明治六年九月傳助死失ニ付家名相續人決定迄原告サヨ戸主トナリ明治六年十二月六日附第二號証書ニ傳次郎ヲ引戻シ相續セシム可キ旨ノ届書一旦運署戸長迄差出シタルハ親類村尾傳吉村尾要助等

ノ壓制ニテ且ツ書式不都合ナルヨリ縣廳ニ於テ聞届ケ不相成旨申
 立ル所右相續届ケ書ハ全ク書式ノ不整ナルヨリ長重徳手元ニ留メ
 置キタルニテ原告サヨ於テ一旦承諾シタルハ村尾傳吉村尾要助
 等ノ壓制ナルノ憑據無ケレハ其承諾ヲ可取消理由ナシトス
 右條々ノ如クナルヲ以テ始審裁判ノ通傳次郎ヲ以テ相續可致モノ
 トス 明治九年十
 一月十六日
 大審院ニ於テ

原告 村尾サヨ 代人西川太郎兵衛上告ノ要領

第一條

大坂上等裁判所ノ判文第三條ニ第一號五月七日附傳助ヨリ村役人
 并ニ一家親類ヘ宛タル書面モアレハ傳次郎繼續ト定ムルノ憑據ヲ
 リトアレトモ右書面ハ傳助義元治元子年中傳次郎ヲ尋テ方トシテ

旅行ノ節万一船中ニテ死去致ストキハ悻傳次郎ヲ呼戻シ本室カツ
 ナ見合セ相續云々ト認メタルモノナル處其節傳助義ハ無恙歸宅シ
 タルヲ以テ此書面ハ反古ト成タルモノナリ且ツ嫡男出生致ストモ
 傳次郎相續致サセ可シトノ書面ニモ之レナク然ルヲ傳次郎繼續ノ
 憑証ナリト認定シタル裁判ハ不法ナリト思考ス

第二條

判文第五條ニ傳次郎異居セシハ明治三年十月ニテ明治四年傳助戸
 籍ニ記載アレハ分籍ニ無之明治五年戸籍改正ニ當リ分籍トアルハ
 果シテ戸長ノ錯誤ナラサルトノ証明モ無之トアレトモ傳次郎ハ明
 治三年十月二十日三千八百五十五番地ヘ分家致シタルカ故ニ戸長
 役場ニ於テ明治五年戸籍改正ノ帳簿ニ分籍トアルヲ以テ判然致シ
 居ル處右分籍ト記載セシハ戸長ノ錯誤トシタルハ難心得所爲ナリ

然ルヲ其錯誤ナラサルトノ証明モ無之トノ裁判ハ不法ナリト思考ス

第三條

判文第五條中傳次郎相續届サヨ運者ノ書面ニモ別居傳次郎ト記載アレハ分籍トノ申分不相立トアレトモ明治六年十二月六日傳次郎相續届書ノ儀ハ書式不整ナルニヨリ差戻サレ惣代長重徳ノ手ニ止メ置キ縣廳ニ於テ開届ケ相成タルモノニ無之加之右書面サヨ名前下ノ印形ハ亡傳助ノ印形ニテ傳次郎所持致シ居ルヲ大組惣代長直二郎ニ於テ押印シタル義ニテサヨ承諾致シタル義ニ無之段明治九年六月二十四日大阪上等裁判所へ申立シ處右届書面調印ノ實否取調モ無之相續届書ニ傳次郎別居ト記載アルヲ以テ分籍ナリトノ申分不相立旨ノ裁判ハ不法ナリト思考ス是今般上告シテ破毀ヲ求ム

ル所以ナリ

原告 代人西川太郎兵衛陳述ノ要領

明治九年六月二十四日大阪上等裁判所へ口供ノ明治六年十二月六日傳二郎相續届書「サヨ」名前下ノ印形ハ亡傳助ノ印形ニテ傳次郎所持致シ居ルヲ長直次郎ニ於テ押印シタルニテサヨ承諾致シタル儀ニ無之段ハ亡傳助ハ明治六年十一月二十九日死去致シ右相續届ハ第七日目同年十二月六日其筋へ親類共ヨリ差出シタルモノニテ傳助ノ印形ヲ傳次郎ニ於テ傳助死後何日頃所持セシヤ且ツ又右印形ヲ長直次郎ニ於テ押印セシトノ儀モ想像迄ニテ孰モ確証ヲ以テ申立タル儀ハ無之候

被告 村尾傳次郎答辨ノ要領

第一條

原告於テ大阪上等裁判所ノ判文第三條ニ第一號証據書子ノ五月七日付傳助ヨリ村役并ニ一家親類へ當テタル書面モアレハ傳次郎繼續卜定ムル憑據ナリトアルチ不法ナリトシ云々陳述ス然レトモ該書ハ亡傳助儀存生中元治元年五月中傳次郎迎ヒトシテ兵庫表へ旅行ノ際認メシモノニシテ當時傳助ハ其行ヲ止メ代人ヲ以テ傳次郎ヲ呼ヒ歸シタリ依テ該書ハ不用ニ屬セシテ傳助ヨリ傳次郎へ相渡シ承シ其眞意ヲ示シタルモノナリ然ルヲ原告於テ嫡男出生致ストモ傳次郎ニ相續致サスヘシトノ書面ニ之レナキトノ陳述ハ該書ヲ誤解セシモノト云フヘシ抑モ傳次郎ノ相續人卜定マルヤ嘉永七年中亡傳助儀鈴木長兵衛ヨリ養子ニ貰ヒ受ケタルノ日ニアリテ宗旨人別帳ニモ同年ヨリ長男傳次郎ト記載セリ且ツ後妻サヨチ迎ヘ一子由井松ヲ擧ケタル後ニ於テモ戶籍面ハ依然傳次郎ヲ長男トシ由

井松ヲ二男トセシチ以テ判然明確ナリ

第二條

同判文第五條ニ明治五年戶籍改正ニ當リ分籍トアルチ果シテ戶長ノ錯誤ナラサルトノ証明モ之レナクトアルチ不法ナリトシ云々陳述セリ然レトモ傳次郎ノ異居セシハ明治三年十月ニシテ其四年ニ至ルモ宗旨人別帳ニ依然傳助長男傳次郎ト記載シアリテ分籍ノ一チ見ス然ルヲ明治五年戶籍編制ノ際戶長ニ於テ出店或ハ別戶等ノ別ナク現在住居セシモノヲ以テ一戶籍トナシ本人及ヒ舊來ノ宗旨人別帳ニモ照依セス傳助傳次郎ヲ各別ニ編制爲シタルヨリ生シタルニテ當時副戶長住吉猶三郎ノ錯誤ニ出テタルト明白ナリ依テ同人ハ廣島縣廳ニ於テ相當ノ處分ヲ受ケタリ然ルヲ原告於テ戶長ノ錯誤ナラサルトノ証明之レナキノミナラス傳次郎相續届書ニモ

別居罷在傳次郎ヲ呼戻シ云々トアリシハ素ヨリサヨ並ニ親族等ニ於テモ同籍別居ト確信セシモノナリ

第三條

同判文第五條ニ傳次郎相續届サヨ連署ノ書面ニモ別居傳次郎ト記載アレハ分籍トノ申分不相立トアルヲ不法ナリトシ云々陳述セリ然レトモ該書面ヲ長直次郎事重徳ノ手許ニ留置タルハ明治八年五月十八日附証據書第六號長直次郎ヨリ廣島縣聽訟課ニ差出シタル書面ニテ明瞭ナレハ此ニ贅辨セス而シテ該届書サヨ名前下ノ印形ハ傳助死後サヨ所持致シ居右届書及ヒ由井松ヘ分地ノ証書等押印ノ後傳次郎ヘ家事万端引渡ノ際相讓リタルモノニテ別紙証據書第七號第十號第十一號第十二號第十三號等ニ明瞭ナリ且ツ大阪上等裁判所ニ於テ原告カ該届書ハ一旦承諾ノ上調印ナシタレトモ右ハ

親族其外ノ壓制ニ依リ爲シタル云々申立シハ被告於テ屢聞知セリ然ルチ今更右印形ハ傳次郎所持致セシ云々原告ノ申立ハ翻異モ亦甚シト云々況ヤ其壓制云々其事實相違セシ原告ノ陳述ニシテ是又別紙証據書等ニテ明瞭ガレヘシ

別紙

第七號

去ル明治六年十月中村尾家相續ノ儀ニ付村尾サヨ并ニ傳次郎ヨリ依頼仕リ私共取選候趣意ハ跡敷相續ノ儀ハ親屬協議ノ上長男傳次郎ヲ以テ家名相續ト決定仕リ則チサヨヨリ届出ニ男由井松ヘ當ニ家督分與取極メ定約書相談ノ親類連名調印ノ上大組總代長直次郎ノ奥印受私儀モ加判仕リ直ニサヨヘ相渡置尙又村尾サヨニ於テ自分望ニ付退隱仕テ家事向方端傳次郎ニ讓任シ

同年同月別莊へ引移り則其夜長直次郎去始不親類中私共招待預
一獻爲相催結構之事濟ニ相成右之通私儀取運申上候事相違無
御座候以上
明治十年丑六月十五日
新壹番
鳥居次郎平印

第拾號

記

去ル明治六年十一月六日村尾家相續ノ儀ニ付長男傳次郎ヲ以テ
家名相續可仕旨村尾サヨ私共同道仕リ大組總代長直次郎方へ罷
越シ届書旨趣承リ納得ノ上調印仕リ届出候事相違無御座候以上
其節小組月番

三千八百三十四番屋

敷工藤久平留守中

付代理同人姉

明治十年十月十八日

第十一號

村尾傳助跡相續ノ義去明治六年十二月六日同人妻サヨヨリ依頼
仕リ私儀取運候趣意ハ村尾サヨ并ニ親類協議ノ上長男傳次郎ヲ
以テ跡敷相續ト決定致シ則サヨヲ始メ小組月番上藤久平私儀同
道仕リ其筋大組總代長直次郎宅へ罷越右村尾サヨ長男直次郎上
藤久平連名調印ノ上管轄應宛ニテ届出尙二男山井松ニ當テハ財
産分與取極メ契約書へ親族連署ノ上村長長直次郎ノ奥印申受ケ
私儀モ連印仕リ則サヨハ相渡シ尙村尾サヨニ於テ只自分望ニ付

退隱仕リ家事向モ万端傳次郎へ譲リ任シ同年同月別莊へ引移

結構事濟ニ相成リ事相違無御座候以上

廣島縣第八大區七小

區三千七百八十二番

明治十年丑十月十八日

第十二號

村尾傳次郎家名相續運書

一村尾傳助後妻サ三鳥居次郎平同伴ニテ私宅へ罷越今般別居長男傳次郎ヲ引辰シ村尾家相續爲致候間届方取謀吳候様申出候ニ付承諾致候處一應引取翌日相認又實印持參可致旨申遣シ候處村尾サ三鳥居次郎平小組月番上藤久平代理姉コウ下申者三名罷越

届書讀聞候處納得ノ上調印致私連印仕明治六年十二月六日長官宛ニテ戸長迄取次申候尙由井松へ財産分與定約奥書へ加印致吳度段村尾サ三鳥居次郎平ヨリ依頼有之望ノ通加印仕候依テ家事傳次郎へ讓渡万端和親ニ至リサ三別莊へ退隱引移リノ節親類其他私共宴席へ連リ候前件ノ運合當官廳裁判所ニテ屢々御尋問申上申仕候處相違無御座候以上

廣嶋縣第八大區七小

區廣村元大組總代長

直次郎事

長 重 德印

明治十年十月十八日

第十三號

記

印

右者當村三千八百四十二番邸村尾サヨ戸主中實印ニ相違無御座候也

故大組惣代

但シ廣村ノ内長濱受

明治十年五月廿三日

長

重 德印

村尾傳吉殿

村尾傳次郎殿

上告ノ主點ハ左ノ條件ナリトス

第一 明治六年十二月六日付村尾傳次郎相續ノ届書ハ原告サヨノ

承諾シタルモノニ非ストノ事

第二 明治六年十二月六日付傳次郎相續届書ハ書式整ハサルニヨ

リ惣代手元ニ留メ置キ縣廳ノ聞届ヲ得タルモノニ非ストノ事

第三 傳次郎ハ村尾傳助ノ相續ヲ爲スヘキ權利ヲ有セストノ事

辨明

第一條

大阪上等裁判所ノ判文第六條ニ原告サヨニ於テ一旦承諾シタル

ハ村尾傳吉村尾要助等ノ壓制ナル憑據ヲケレハ其承諾ヲ可取消理

由ナシト判決シタルヲ不法ナリトシ右書面サヨ名前ノ印形ハ亡傳

助ノ印形ニテ傳次郎所持セシヲ大組惣代長直次郎押印シタル義ニ

テサヨ承諾シタルニ無之段明治九年六月二十四日大阪上等裁判所

へ申立シ處調印ノ實否取調モナカリシトノ申立ニヨリ大阪上等裁

判所ノ簿冊ヲ調査スルニ

明治九年三月九日付控訴狀ニ

村尾傳次郎ヲ引戻シ相續セシムヘキ旨届書ニ「サヨ」始メ該村月番并惣代連署ヲ縣廳宛ニテ戸長役場迄差出スト雖モ右ハ親類村尾傳吉村尾要助ノ壓制ニヨリ不得止承諾シタル儀ニテ云々

明治九年三月三十日ノ申立

一傳次郎相續願書へ連印等不致上ニ傳助病死届等モ出シ難ク旨申聞候ニ付無餘義連署致候儀ニ御座候

一傳助死去願差出候付而ハ傳次郎引戻シ相續願書へ調印不致テハ迷惑ノ筋有之旨村方惣代長直次郎再三申聞尤傳次郎相續願ハ其筋聞届ニハ不相成旨申偽リ候ニ付彼是相巧ニ候義トハ不心付調印致候

明治九年六月廿四日ノ申立

明治六年十二月傳次郎相續届ハハサヨ印形押シ不申候然ルニ夫

傳助印形其頃傳次郎方ニテ所持致シ候義ニ付右届書へハ傳助印形ヲ長直次郎押候儀ニ付右届書承知ノ段ハ明白ナリ

原告サヨノ申立前後齟齬スル事斯ノ如シ依テ大阪上等裁判所ニ於テ右届書ハ壓制ニ成立タルノ証ナシト判決シタルハ不當ノ裁判ニ非ストス

第二條

傳次郎相續届書ハ書式整ハサルニヨリ惣代手元ニ留メ置キ縣廳ノ聞届ヲ得タルモノニ非スト云ト雖モ書式ノ整ハサルハ之ヲ改正スルニ止リ相續人ノ進退ニ關スルノ理ナク又届書ハ聞届ノ指令ヲ爲スヘキモノニ非ストス

第三條

傳次郎ハ相續人タルヲ權利ヲ有スルモノニ非ストノ辨論ハ大阪上

等裁判所ノ裁判ノ當否ニ關セサル辨論ナリトス如何トナレハ一旦
 協議ノ上相續人タルノ届ヲ爲シタル上ハ縱令届ヲ爲サ、ル前ニ在
 ツテハ相續ノ丁ニ付キ故障ヲ爲スヘキ權利アルニモセヨ既ニ協議
 ノ上届出タル相續人ヲ故ナク廢スヘキ條理ナケレハナリ
 判決
 右條々ノ如クナルヲ以テ大阪上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナ
 シトス

第八拾七號

○郡境論一件上告ノ判文明治九年十二月十一日上告
 明治十一年五月卅一日申渡
 長野縣下第十六大區
 小區信濃國伊那郡藤澤
 村片倉耕地

右總代 同村農

伊藤 清彌

同 同

守屋 勘治

被告 長野縣下第十五大區五

小區信濃國諏訪郡中洲

村神宮寺耕地

右總代 同村農

笠原 義左衛門

同 同

金井 新兵衛

東京上等裁判所ノ審判

原告 藤澤村片倉耕地總代守屋甚十郎外壹名控訴ノ要領明
八年四月
廿五日

論所字赤井澤厄病平ノ二ヶ所ハ論外本譯以下十ヶ所ト共ニ往古ヨ
リ原告村片倉耕地々元ニシテ諏訪郡高部村并被告神宮寺耕地外十
ヶ村ト都合十三ヶ村入會ノ秣場ナリ其境界線ハ字杖突峠舊高遠領
諏訪領分杭ヨリ峯通リ守屋嶽見通シ其際ニ築土手ニヶ所之アリ道
筋ニ於テモ神宮寺耕地ヨリハ道形之アル迄ニテ藤澤村片倉耕地ヨ
リハ塲廣ノ馬道之アリ既ニ年々山手米トシテ壹石二斗五勺右十二
ヶ村ヨリ原告藤澤村へ請取リ右ノ外ニ藤澤村限リ進退ノ山手米二
斗四升九合五勺ヲ加へ都合壹石四斗五升宛貢納シ來レリ元祿三庚
午年七月二十五日片倉耕地ト右入會十二ヶ村ト爭論ノ節ニ取替セ
タル左ノ手形

爲取替申手形之事

一 高遠領片倉村山之内へ諏訪領十二ヶ村ヨリ山手米年々出シ先
規ヨリ入相ニ仕木草取來申候處今度片倉村ヨリ申候ハ入相ノ
塲所ハ四ヶ所ヨリ外無御座候由申諏訪領ヨリ申候ハ四ヶ所ノ
外山手山數ヶ所御座候由申出論所ニ罷成候乍去双方ニ證文ハ
無御座候然處眞田伊豆守様御内御檢地御役人久保田儀太夫様
論所ノ塲御見分ノ上御取扱被遊大海道ヨリ北西ハ分杭ヨリ本
澤迄繪圖ノ通如先規入相大海道ヨリ東南ハ澤水ナシ小道上塲
通リヨケ迄其ヨリ南東作り道迄見トナシ其間北東ノ内入相ニ
可仕候旨御扱被遊下置御尤至極奉存候併山ノ麓通ニ荒畑等有
之草ノ儀諏訪領ヨリ一切刈取申間敷候尤有來山道片倉村ヨリ
ツフシ申間敷候并諏訪領ヨリ新道作り申間敷候右ノ塲所自今

以後双方相互御扱ノ通リ相守可申候少シモ出入無御座候爲後
日取替一札仍如件

諏訪領高部村名主

庄左衛門印

同所長百姓

總兵衛印

元祿三年庚午七月廿五日

同

六左衛門印

神宮寺村名主

九郎兵衛印

小町屋村名主

武兵衛印

安國寺村名主

平右衛門

中河原村名主

才次郎印

新居村名主

作右衛門印

宮田渡村名主

次兵衛印

上金子村名主

九兵衛印

中金子村名主

七郎兵衛印

福嶋村名主

八 左衛門印

赤沼村名主

平 右衛門印

飯嶋村名主

興 左衛門印

總 百 姓印

高遠御領片倉村

名主
組頭中

ニモ大海道ニリ北西ハ分杭ヨリ本澤迄繪圖面ノ通り如先規入會ト
之レアリ則チ論所字赤井澤厄病平ハ右分杭ヨリ本澤迄ノ間ニ挾マ
リ前條峯通り守屋嶽見通シノ線内ニ在ルヲ以テ伊那郡ノ境内ニ属

セリ寶曆八戊寅年三月二十四日右入會十二ヶ村ノ者原告藤澤村檢
地受ノ場所ニテ立木伐採リ爭論ニ及ヒタル處變人立入テ濟方ニ相
成リ其節取替ハセ証書并ニ差出一札

爲取替証書之事

一高遠御領分地元片倉村へ入會山手山ノ内ニ而片倉村御衆中御
檢地請之場所ニ而諏訪十二ヶ村ノ者共立木等伐取候ニ付去ル
亥ノ八月ヨリ及爭論ニ候處此度上諏訪神宮寺様并神宮寺村平
助其御村三五郎殿へ申談右爭論ノ儀取扱拙者共方ヨリ一札差
出候ニ付何茂御得心ノ上致和睦候然上ハ相互ニ元祿三千年久
保田儀太夫様御扱ニ而相濟候取替証文繪圖面并此度差出候一
札ノ書面ノ趣急度相守可申候仍取替証文如件

諏訪領高部村名主

右 衛 門 印

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

寶曆八戊寅年三月廿四日

角 左 衛 門 印

年 寄 嘉 左 衛 門 印

年 寄 嘉 左 衛 門 印

中 金 子 村 名 主 右 衛 門 印

中 金 子 村 名 主 右 衛 門 印

年 寄 清 右 衛 門 印

年 寄 清 右 衛 門 印

福 島 村 名 主 左 衛 門 印

福 島 村 名 主 左 衛 門 印

年 寄 孫 兵 衛 門 印

年 寄 孫 兵 衛 門 印

赤 沼 村 名 主 孫 兵 衛 門 印

藤 兵衛 印

年寄

磯 右衛門 印

飯島村名主

彦 兵衛 印

年寄

孫 助 印

新井村名主

又 助 印

年寄

平 右衛門 印

中河原村名主

篠 右衛門 印

年寄

沖 右衛門 印

安國寺村名主

淺 右衛門 印

年寄

平 右衛門 印

小町屋村名主

藤 左衛門 印

高遠御領分片倉村

御役人衆中

右書面ノ通拙寺平助取扱和睦相濟候ニ付此度十二ヶ村ヨリ差出

候ニ札者勿論取替証文ノ趣此以後異變無之様右村々ニ申談置候
此ノ度取扱候ニ付テハ此以後何變少儀有之候共拙寺平助引受異
失無之様可致候與印仍如件

上諏訪扱人 寺印

神宮寺村扱人 寺印

平 助印

差出申一札之事

一高遠御領片倉村山ノ内へ諏訪領十二分村ヨリ入會山手山ノ内
ノ御檢地請ノ場所ノ立木ヲ右入會村ノ山人共入込猥リ取
申候ニ付我等方へ預御斷ニ於村々詮議仕候所ニ成程利不盡成
致方申譯無御座候然所ニ神宮寺様被及御聞其御地迄度御出

被成右不埒ノ致方御貫被成御内々ニテ御濟シ被下致安堵候然
上ハ元祿三年取替証文通山ノ麓通荒畑等有之候ニ付草ノ
義諏訪領分一切刈取中間敷候尤山手山ノ定法急度相守向後不
埒成義無之様ニ末々迄可申付候爲後日仍如件

諏訪領高遠村名主 門印

年寄 右 衛 門 印

寶曆八戊寅年三月廿四日

神宮寺村名主 左 衛 門 印

年寄 右 衛 門 印

年寄 左 衛 門 印

左 衛 門 印

宮田渡村名主

兵衛印

治

年寄

元

右衛門印

上金子村名主

左衛門印

角

年寄

嘉

左衛門印

中金子村名主

右衛門印

龜

年寄

右衛門印

福島村名主

金 左衛門印

年寄

孫 兵衛印

赤沼村名主

藤 兵衛印

年寄

儀 右衛門印

飯島村名主

彦 兵衛印

年寄

孫

助印

新井村名主

又

助印

年終

平

右衛門

印

中河原村名主

藤

右衛門

印

年終

安國寺村名主

淺

右衛門

印

年終

平

右衛門

印

小町屋村名主

藤 左衛門 印

高遠御領分片倉村

御役人衆中

右ノ趣ニ而濟兼候所ニ拙者取扱ニ而前書ノ通ニ而御濟被下忝奉
存候

神宮寺村

平 助印

一前書ノ通相違無御座候以上

上ノ宮

神宮寺 印

元禄三年為取替証文通リ急度可相守下ニテ當時尙ホ元禄

度ノ條約ヲ證據トナシ其境界ヲ變セテ又文政九年中原告片倉村佐太郎ナル者論所赤井澤ニ於テ草茹灰燒シタル處被告村方ノ者見咎メ爭論ニ及ヒ立入人貫請ケ其節取替セタル濟口証文

示談濟口証文ノ事

一高遠御領分片倉村佐太郎當八月二十二日草茹灰燒候場所片倉村ニ而者同村地分諏訪十二ヶ村入會山赤井澤ト申神宮寺村ニ而者同村内山ト申場所申爭既ニ可及爭論ノ所双方申分立入人貫請内濟熟談相整候然上者双方聊申分無之候御境目ノ儀ハ先規ノ通相心得以來場所等心得違不法ノ儀無之様相互ニ心附可申候依之爲後日双方連印扱人加印濟口証文仍如件

内藤大和守領分片倉村

名主

文政九丙戌年十二月

新 左 衛 門 印

同

清 右 衛 門 印

年寄

勘 治 印

同

伴 藏 印

諏訪伊勢守領分神宮寺村

名名

亥 左 衛 門 印

同

八 右 衛 門 印

年寄

記

右

衛

門

印

同

太

治

平

印

内藤大和守領分御堂垣外村

暖人

年寄

八

左

衛

門

印

北原村

暖人

名主

茂

兵

衛

印

諏訪伊勢守領分下桑原村

暖人

長百姓

次

郎

七

印

下諏訪宿

暖人

年寄

順

藏

印

ニ境目ノ儀ハ先規ノ通リト之アリ是亦元祿度ノ條約ニ基キ互ニ境
界ヲ遵守スルノ証ナリ又論所ノ内字幕岩ノ儀ニ付テハ元祿三庚午
年檢地ノ節銘々鹿畑名受地ニ之アリ年々貢租納メ來リタル上ハ是
亦藤澤村片倉耕地地坑等ノ確証ニシテ左ノ檢地帳扣ノ如シ

元祿三年御檢地見取改帳扣末ヨリ四枚目ニ
 まく岩
 一十間 鹿畑三畝拾歩 御繩請 壹畝步 甚 五右衛門治
 同所 鹿畑三畝拾歩 藤右衛門 內 壹畝步 八 郎 治
 同所 鹿畑貳畝步 藤左衛門 內 壹畝步 八 郎 治
 一十四間 鹿畑壹畝拾八歩 同 半之丞 八郎右衛門
 同所
 一十六間 鹿畑貳畝步 同 藤左衛門 八 左衛門
 同所
 一十四間 鹿畑壹畝貳步 同 左右衛門 左右衛門
 同所

一五間 鹿畑壹畝拾歩 同 庄右衛門 內 十三步 此勝 甚 五右衛門吉
 前條証據トスル元祿度ノ繪圖面ハ舊高遠藩ヨリ舊筑摩縣廳へ引繼
 キタル繪圖面ト同一ノモノナレハ即チ公正ノモノナルニ獨リ幕岩
 ナ畫キアルノ異ナルヨリ初審裁判ニ於テ幕岩チ更畫シタル旨申渡
 サレタレトモ右繪圖面ハ最初縣廳へ差出シタルヨリ落着ニ至ル迄
 曾テ取下ケタル丁之ナシ如何ソ更畫シ得ルノ理アラシヤ又判文ニ
 元祿度片倉村野帳中ニ字まゝ岩ハ之アリト雖モ幕岩ノ名所之ナシ
 ト申渡サレタレトモ前顯ノ如ク同時村方扣帳ニモ儘カニまく岩ト
 記載相成リ居リ猶左ノ明和四亥年享和三亥年兩度ノ名寄帳
 明和四亥年田畑名寄帳六拾貳枚目ニ
 手永
 一幕岩鹿畑拾三步 甚五左衛門ニ入ルト有之

同七拾五枚目ニ

一 幕岩鹿畑壹畝歩

享和三亥年田畑名寄帳七拾六枚目ニ

一 幕岩鹿畑壹畝拾八歩

其他ノ諸帳記ニモ幕岩ト記載シ殊ニ當村ニハマヽ岩ト申ス場所會
テ之ナシ因テ自分共推考ニハクノ字ノ尻短キヨリマヽト見ヘタル
モノニテ實地繪圖面ト適合シタル上ハマヽニ非スシテマヽクナル
判然ナリ全体該山論ノ儀ハ先般地券調ノ際ニ至リ高部村以下從前
入會村々ノ内獨リ被告神宮寺耕地ノニ異論ヲ生シタルニヨリ外村
々ニ於テハ赤井澤ハ入會地タルノ熟議ニテ明治七年一月左ノ
取究申規定之事
一 今船公有地調ニ付片倉村地元從前諏訪郡十二ヶ村入會ノ内字

藤左衛門請ト記載有之

赤イ澤ト申場所ニ相違無之處此度神宮寺村ヨリ申候様幕岩ヨ
リ守屋嶽ニ見通シ夫ヨリ入テ神宮寺村内山ト申出爭論ニ罷成
候ニ付依之相手村ヲ除キ外村双方片倉村ニ集會仕從前ノ所持
地片倉村申通リ入會山ニ相違無之然ル上ハ何様六ヶ敷相成候
共相互ニ異變申間敷候爲念規定書仍如件
此印紙山論相濟申候節者兩方共引取候様相定候以上

明治七甲戌一月

片倉村副戸長

割戸長

守屋甚十郎印

副戸長

伊藤清彌印

高部村副戸長

立石四郎兵衛印

上金子村惣代

矢澤柳平印

中金子村惣代

岩波八藏印

福島村副戸長

岩波祖兵衛印

赤沼村副戸長

松本友治印

飯島村副戸長

北澤五左衛門印

新井村副戸長

上原庄左衛門印

安國寺村副戸長

飯田八十吉印

中河原村副戸長

濱勝藏印

連署調印ノ規定取究メ藤澤村ヨリ出訴ニ及フヘキノ處豈計ランヤ
 既ニ神宮寺耕地ヨリ先訴致サレ前條ノ諸証一切採用相成ラス又實
 地見分アリト雖モ測量シタル儀ニモ之レナク神宮地耕地方無証ノ
 申立實地ニ適合シタルト云フヲ以テ杖突峠分杭ヨリ蛇ヶ尾根通り
 守屋嶽見通シ諏訪伊那兩郡ノ經界ト申渡サレタルハ不服ナリ依テ
 更ニ審判アラソフヲ願フ

被告 中洲村神宮寺耕地總代笠原義左衛門外二名答辨ノ要
 領
 神宮寺耕地ノ義ハ高六百九拾二石九斗八升五合五勺ニテ右高内ニ
 有税ノ山地之レナク高外ニ於テ山税六斗八升壹合四勺年々上納シ
 來リタル場所ハ守屋山ノ内今般論所字幕岩蛇ノ尾根細尾澤中ノ澤
 蘆久保權祝畫飯場舟久保等ニシテ右箇所及ヒ經界線ハ貞享元年ノ
 繪圖面ニ詳カナリ文政九年八月原告藤澤村ノ内片倉耕地佐太郎ナ
 ル者權祝畫飯場ニ於テ草蒔灰燒致シ神宮寺耕地方ノ者見咎メタル
 ニ片倉耕地ニ於テハ字赤井澤ノ内ニテ即チ十三亥村入會ノ趣申答
 ハ爭論ニ及ヒタル處暖人貰受ケ文政九年十二月示談濟口証文取替
 ハセ其節右暖人ヨリ神宮寺耕地へ受取リタル一札
 差出申引受一札之事

一 高遠御領分片倉村佐太郎草蒔灰燒候場所心得違申立可及爭論
 ニ之處双方申分立入人貰請別紙和談書ノ通り内濟熟談相整候
 然ル上ハ暖ノ者引受向後佐太郎灰燒候近邊へ片倉村ノ者決テ
 爲立入申間敷候依之引受一札差出申候爲後日如件

内藤大和守領分御堂垣外村

暖人

年寄

文政九丙戌十年二月

八 左 衛 門 印

北原村

同

名主

兵衛 印

諏訪伊勢守領分下諏訪宿

同

年寄

順

藏印

下桑原村

同

長百姓

治郎七印

諏訪伊勢守様御領分神宮寺村

名主

亥左衛門殿

同

八右衛門殿

年寄

記右衛門殿

同

太治平殿

ノ文面ニモ向後片倉村ノ者爲立入申問敷旨記載アル上於論所字赤井澤ハ全ク被告神宮寺耕地ノ内山ナルヲ判然ナリ元禄十一年諏訪郡真志野村ト伊那郡長岡村ト字影入ノ爭論追々他村ニ波及シ關係ノ村々實地立會地引繩張りノ上繪圖面出來シ片倉耕地始メ各村記載セル處神宮寺耕地ニ於テハ論所ニ關係セラルルヲ以テ白紙ニテ記載セズ其記載セサル處即チ神宮寺耕地ノ内山ニシテ今殿ノ論所ナル旨申答ヘタリ

判文

第一條

原告片倉耕地ヨリ指出シタル村繪圖ハ舊高遠藩及高島藩ヨリ舊筑摩縣廳
 へ引繼キタル繪圖面ト大同小異アリ原告片倉耕地ノ繪圖面ニ幕岩
 ノ形アレトモ縣廳ノ繪圖面ニ其跡ナク被告神宮寺耕地ノ繪圖面ニ
 貞享元年ト記載アリト雖モ縣廳ノ繪圖面ニ無之又元祿十一年眞志
 野村長岡村トノ爭論ヲ畧記シ有ルモ縣廳ノ繪圖面ニ不相見尤モ今
 般ノ論所ハ前兩藩引繼キノ繪圖面ニ各包含セルモノ、如シ右ハ畢
 竟兩藩ノ各自ニ調製シタル見取りノ畧繪圖ナレハ獨リ此繪圖面ノ
 ミチ以テ論所境界ノ証據ト爲シガタシ

第二條

原告片倉耕地ヨリ指出シタル元祿三年ノ繪圖面ナリト謂フハ年號

ノ記載モ無之高部村ヨリ指出シタル村繪圖ニハ元祿三庚午ト記載
 シ之レニ附属スル証書ハ原告片倉耕地ヨリ指出シタル元祿三年ノ
 爲取替手形ト同一ノモノナレトモ原告片倉耕地ノ繪圖面ハ右繪圖
 面ト異様ナレハ假令高部村ノ繪圖面ハ元祿三年ノモノナリト認メ
 ト雖モ原告ノ繪圖面ハ果シテ元祿三年ノモノナリト謂フヘカラス
 既ニ元祿三年ノモノト確定スヘカラサレハ元祿三年ノ爲取替手形
 ニ大海道ヨリ北西ハ分杭ヨリ本澤迄繪圖面ノ通り如先規入會ト有
 之ト雖モ唯入會ノ証ノミニシテ其境界線ハ據ルヘキナシトス

第三條

原告片倉耕地ヨリ指出シタル寶曆八年ノ爲取替証文ニ元祿三年爲
 取替証文繪圖面并此度指出一札急度相守可申ト有之ト雖モ右繪圖
 面ノ可証ナケンハ隨テ証據ノ由ルヘキ無シトス